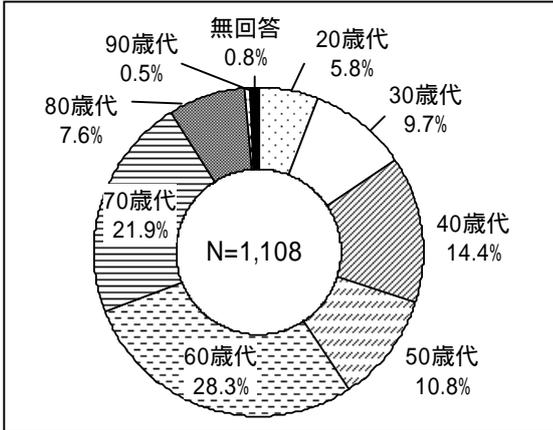


調査報告

1 回答者の属性

〔図1〕年代別

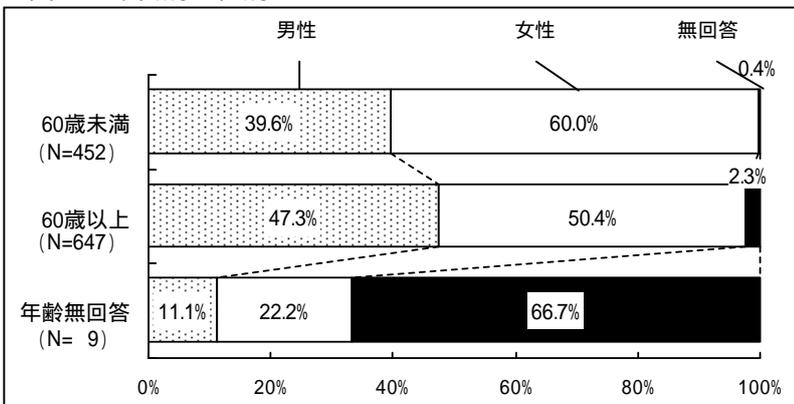


調査回答者の割合は、60歳代、70歳代が高く、20歳代が低い

調査回答者の年齢別構成比は、「60歳代」が28.3%と最も高く、次いで、「70歳代」21.9%、「40歳代」14.4%である。「20歳代」は5.8%となっている。

母集団構成比（「60歳代」16.8%、「70歳代」12.0%、「40歳代」19.6%、「20歳代」13.3%）と比較すると、60歳以上の方の意見がより強く反映されていることを考慮しておく必要がある。

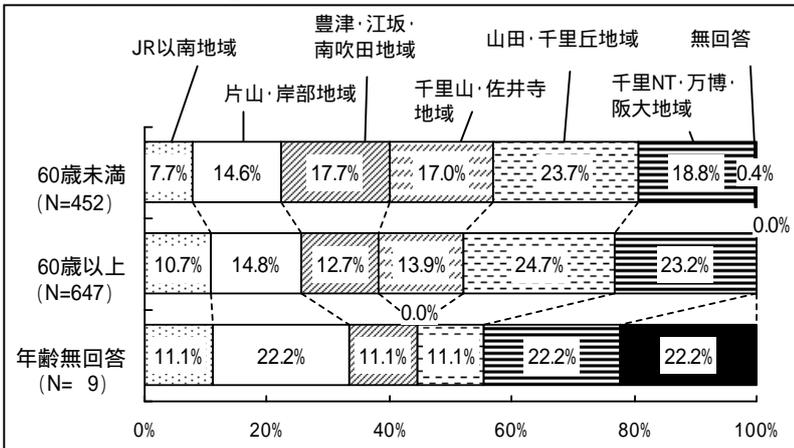
〔図2〕年代別 性別



性別では、女性の比率が高い

性別構成比は、60歳未満で「男性」39.6%、「女性」60.0%、60歳以上で「男性」47.3%、「女性」50.4%である。

〔図3〕年代別 地域

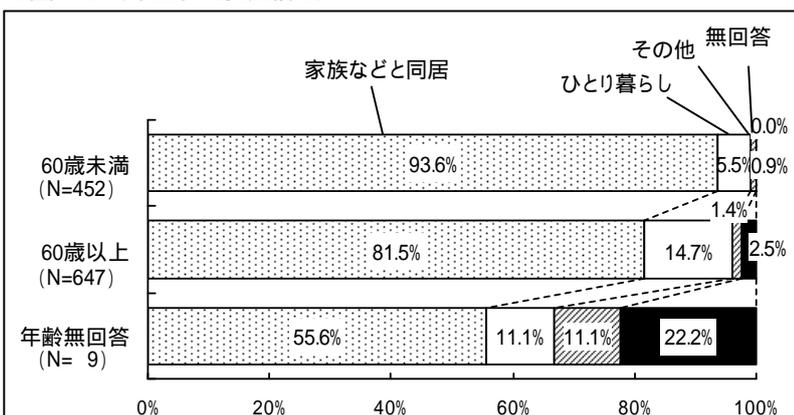


地域別では、山田・千里丘地域の比率が高い

地域別構成比は、「山田・千里丘地域」が最も高く、60歳未満で23.7%、60歳以上で24.7%である。

次いで、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が、60歳未満で18.8%、60歳以上で23.2%である。

〔図4〕年代別 家族構成

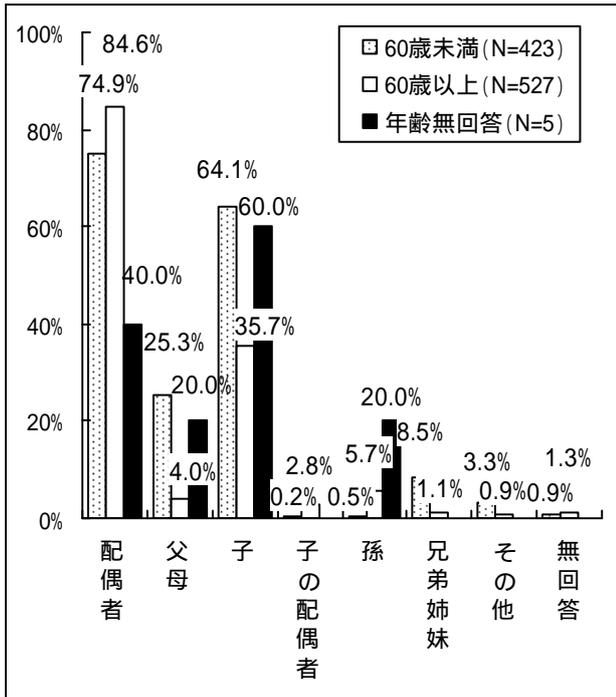


家族構成は、「家族など同居」の方が多い

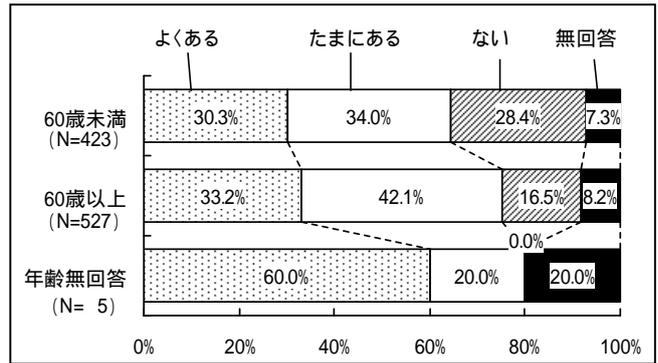
60歳未満の93.6%、60歳以上の81.5%が「家族など同居」している。

「ひとり暮らし」は60歳未満の5.5%、60歳以上の14.7%である。

〔図5〕年代別 同居の家族（複数回答）



〔図6〕年代別 日中、一人になることがあるか

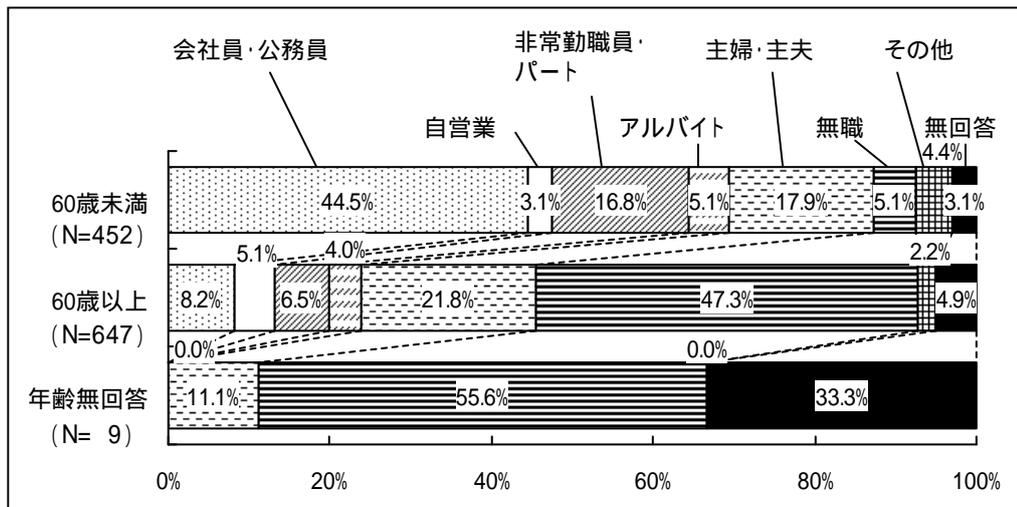


同居の家族は「配偶者」、「子」が多い

同居の家族は、「配偶者」が最も多く、60歳未満で74.9%、60歳以上で84.6%である。次いで、「子」が60歳未満で64.1%、60歳以上で35.7%である。

日中、一人になることが「よくある」のは、60歳未満で30.3%、60歳以上で33.2%である。

〔図7〕年代別 仕事

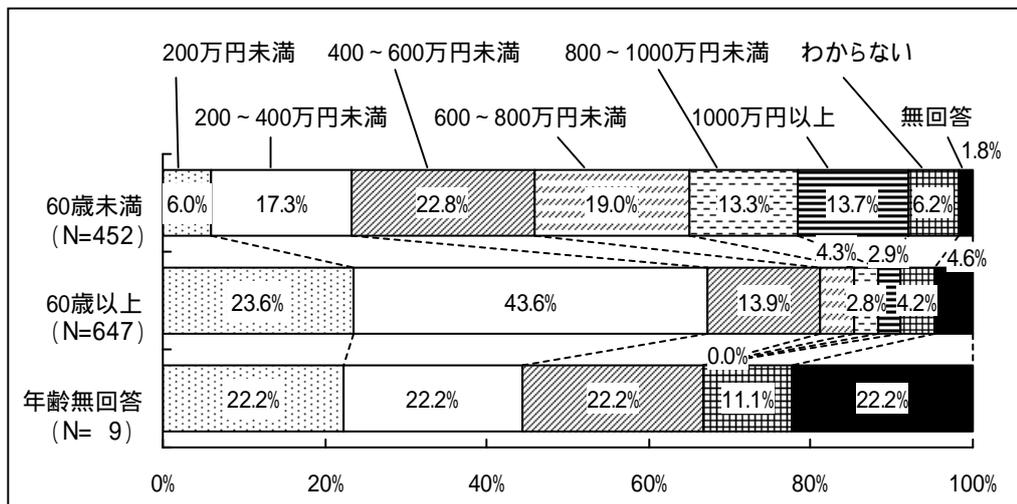


仕事について

60歳未満では「会社員・公務員」が最も多く、44.5%、次いで「主婦・主夫」が17.9%である。

60歳以上では「無職」が最も多く、47.3%、次いで「主婦・主夫」が21.8%である。

〔図8〕年代別 世帯の年収

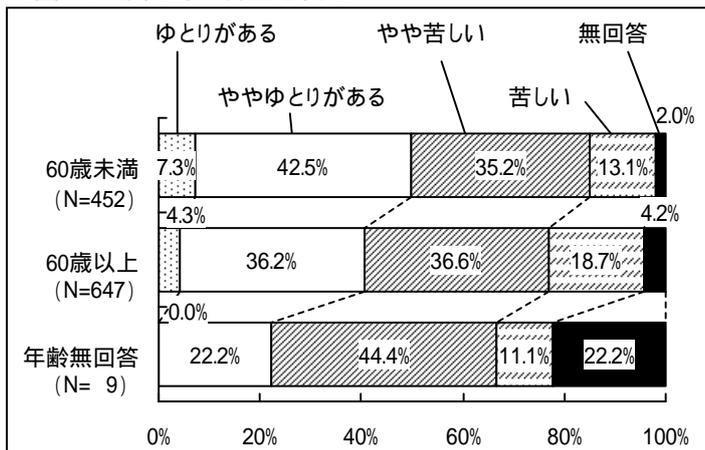


世帯の年収について

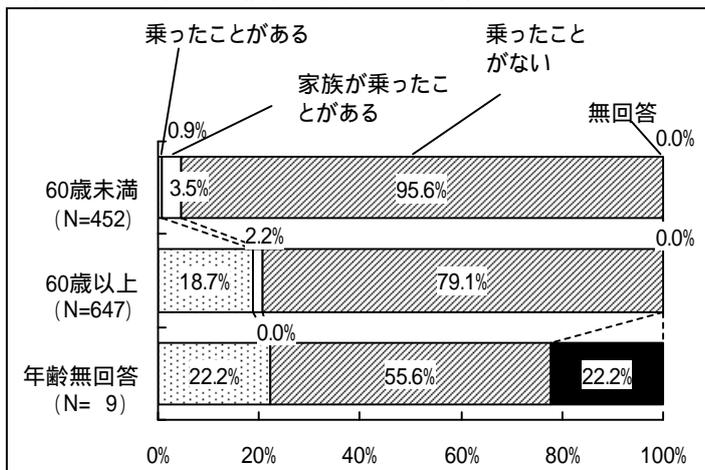
60歳未満では「400~600万円未満」が最も多く、22.8%である。

60歳以上では「200~400万円未満」が最も多く、43.6%である。

〔図9〕年代別 暮らし向き



〔図10〕年代別 福祉巡回バスの乗車経験



暮らし向きについて

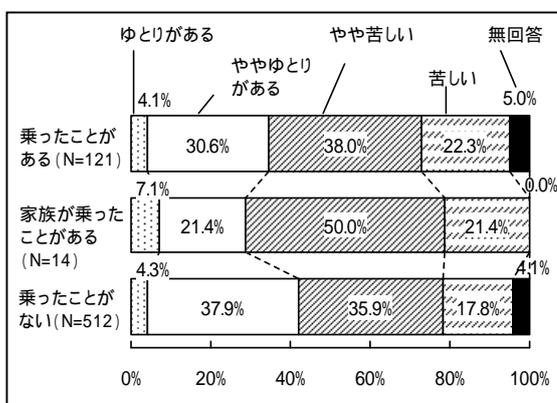
60歳未満では「ややゆとりがある」が最も多く42.5%、60歳以上では、「やや苦しい」が最も多く36.6%である。

福祉巡回バスの乗車経験について

福祉巡回バスに「乗ったことがある」のは、60歳未満で0.9%、60歳以上で18.7%である。また、乗ったことがある方のうち最も多い年代は、70歳代で42.5%である。

60歳以上の方の暮らし向きは、「乗ったことがない」方では、「ややゆとりがある」(37.9%)が「やや苦しい」(35.9%)より多い。

〔図11〕(60歳以上)乗車経験別 暮らし向き

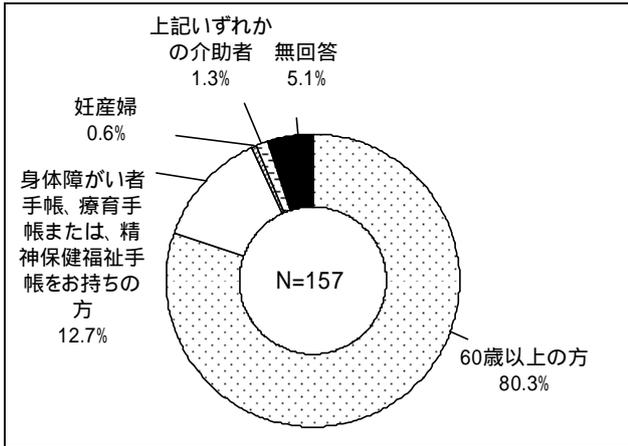


〔表3〕福祉巡回バスに乗ったことがある人の年齢及び地域

選択項目	全体	JR以南地域	片山・岸部地域	豊津・江坂・南吹田地域	千里山・佐井寺地域	山田・千里丘地域	千里NT・万博・阪大地域	
合計(人)	127	16	18	15	12	22	44	
年代別構成(人)	20歳代	0	0	0	0	0	0	
	30歳代	1	0	0	0	0	0	
	40歳代	2	0	0	1	0	0	
	50歳代	1	0	0	0	1	0	
	60歳代	35	2	7	6	3	6	
	70歳代	54	9	5	5	5	10	
	80歳代	30	4	4	3	3	5	
	90歳代	2	1	1	0	0	0	
	無回答	2	0	1	0	0	0	
全体(%)	100.0%	12.6%	14.2%	11.8%	9.4%	17.3%	34.6%	
年代別構成比(%)	合計(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%
	40歳代	1.6%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	2.3%
	50歳代	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	27.6%	12.5%	38.9%	40.0%	25.0%	27.3%	25.0%
	70歳代	42.5%	56.3%	27.8%	33.3%	41.7%	45.5%	45.5%
	80歳代	23.6%	25.0%	22.2%	20.0%	25.0%	22.7%	25.0%
	90歳代	1.6%	6.3%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.6%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	

2 吹田市福祉巡回バスの利用実態

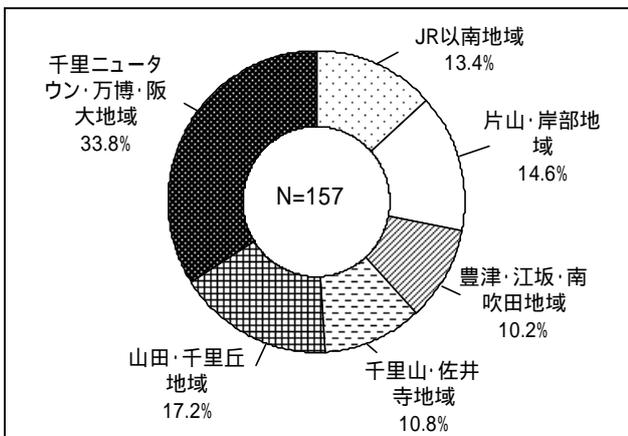
〔図 12〕利用証の区分



利用証の区分は「60歳以上の方」が多い

利用証の区分は、「60歳以上の方」が80.3%で最も多く、次いで、「身体障がい者手帳、療育手帳または、精神保健福祉手帳をお持ちの方」が12.7%である。「妊産婦」は0.6%である。

〔図 13〕地域別 自身又は家族の利用経験あり

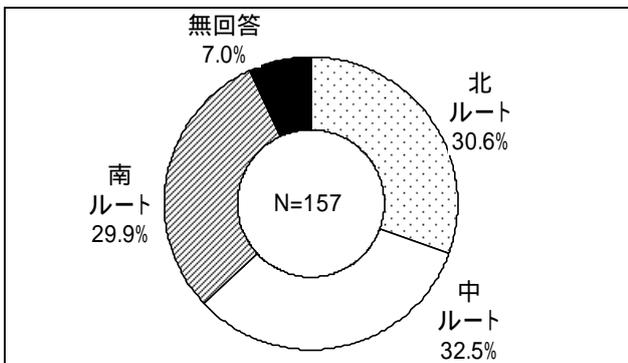


福祉巡回バスに乗ったことがある方は、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」の方が最も多い

福祉巡回バスに「乗ったことがある」又は「家族が乗ったことがある」方で最も多い地域は「千里ニュータウン・万博・阪大地域」で、33.8%である。

次いで、「山田・千里丘地域」で17.2%である。

〔図 14〕主に利用したルート

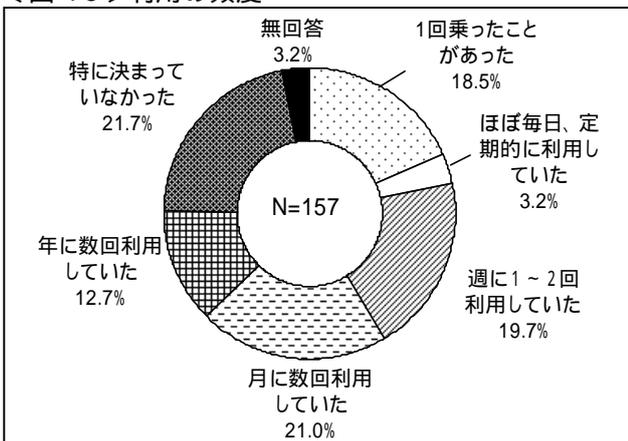


主に利用したルートに大きな偏りはない

主に利用したルートの割合は、「中ルート」が最も高く32.5%、次いで「北ルート」30.6%、「南ルート」29.9%である。

「中ルート」と「南ルート」の差は、2.6ポイントであり、利用したルートに大きな偏りはみられない。

〔図 15〕利用の頻度

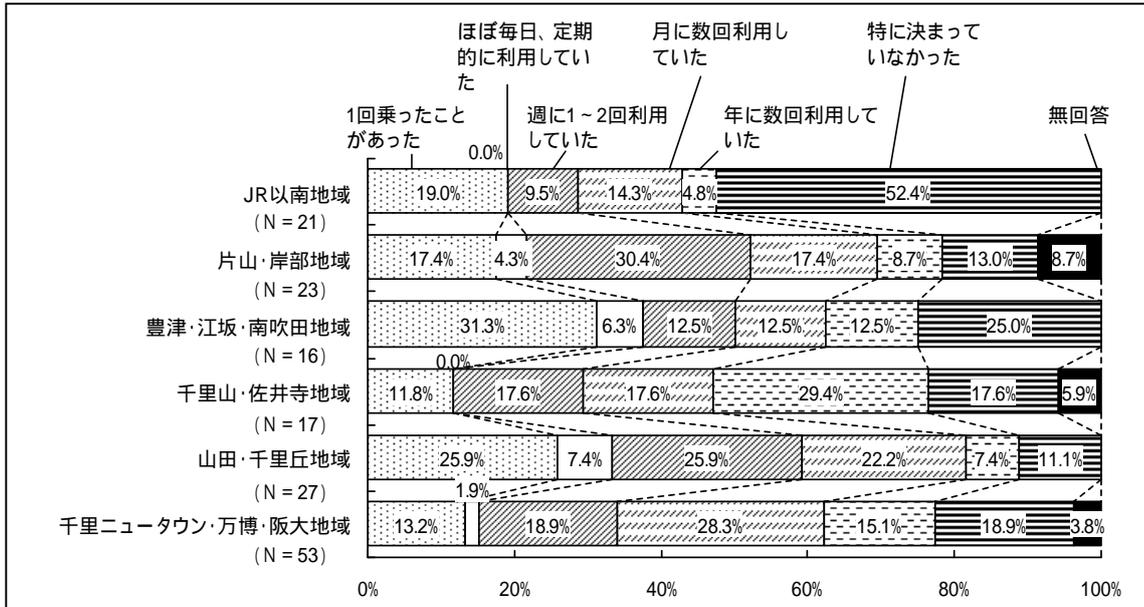


利用頻度は「特に決まっていなかった」方が多い

利用頻度は、「特に決まっていなかった」方が最も多く、21.7%である。

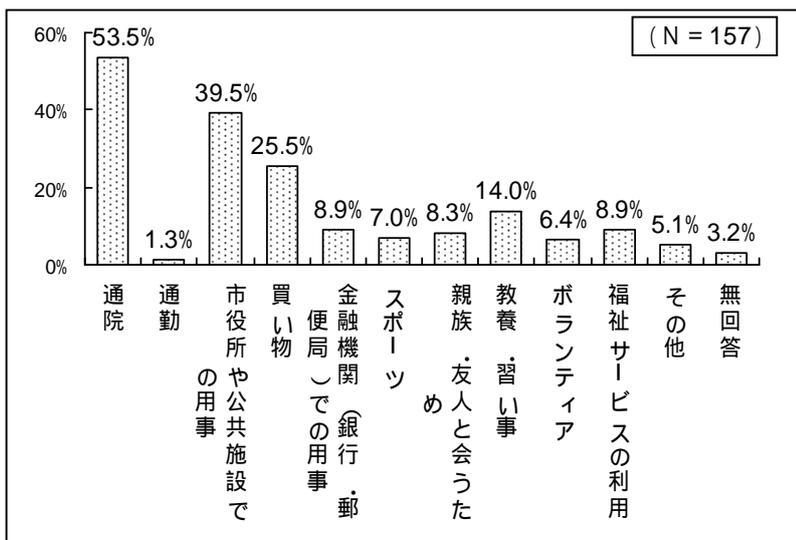
次いで、「月に数回利用していた」方が21.0%、「週に1～2回利用していた」方が19.7%、「1回乗ったことがあった」方が18.5%と続く。

〔図 16〕地域別 利用の頻度



地域別の利用頻度 地域別の利用の頻度をみると、「特に決まっていなかった」方が最も多いのは「JR以南地域」で、52.4%である。次いで「豊津・江坂・南吹田地域」が25.0%である。

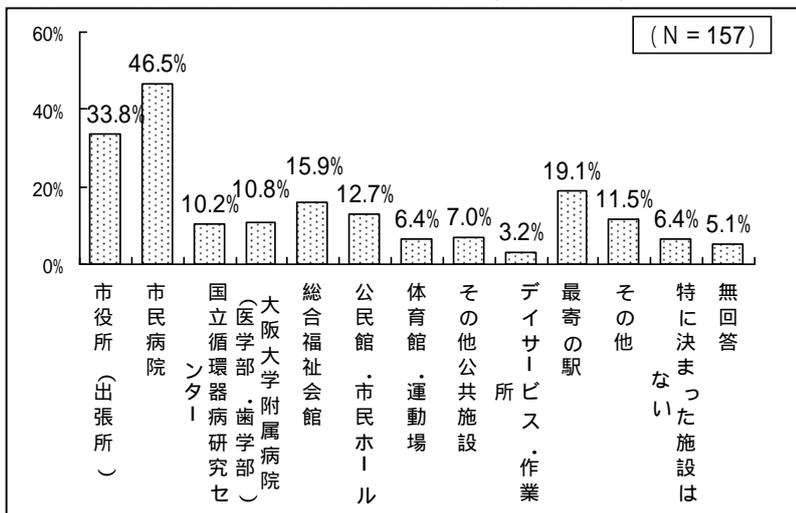
〔図 17〕福祉巡回バスで外出した用事（複数回答）



外出した用事は「通院」、「市役所や公共施設での用事」、「買い物」

福祉巡回バスで外出した用事で最も多いのは、「通院」で、53.5%である。次いで、「市役所や公共施設での用事」が39.5%、「買い物」が25.5%である。

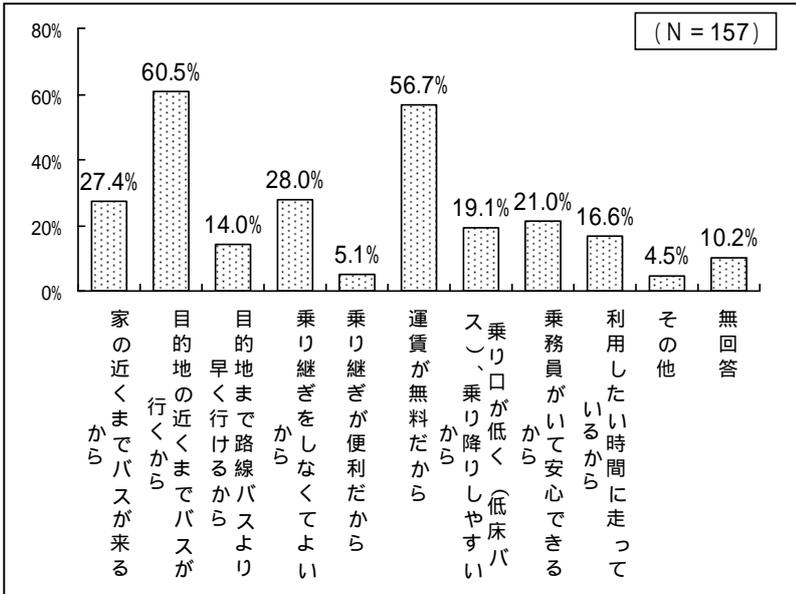
〔図 18〕福祉巡回バスで利用した施設（複数回答）



利用した施設は「市民病院」、「市役所（出張所）」、「最寄の駅」

福祉巡回バスで利用した施設で最も多いのは、「市民病院」で、46.5%である。次いで、「市役所（出張所）」が33.8%、「最寄の駅」が19.1%である。

〔図 19〕福祉巡回バスを利用していた理由（複数回答）



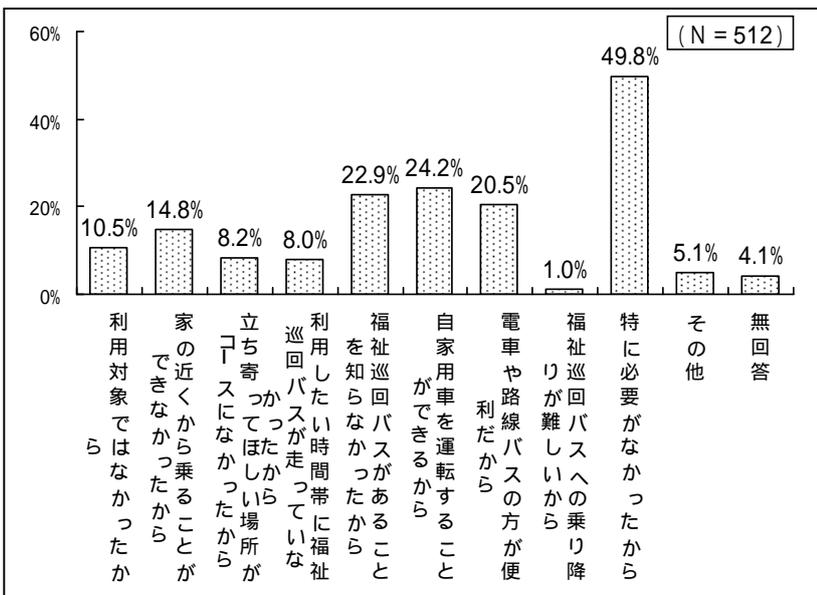
福祉巡回バスを利用していた理由は「目的地の近くまでバスが行くから」、「運賃が無料だから」

福祉巡回バスを利用していた理由で最も多いのは「目的地の近くまでバスが行くから」で、60.5%である。次いで、「運賃が無料だから」が56.7%、「乗り継ぎをしなくてよいから」が28.0%である。

「乗務員がいて安心できるから」は21.0%で、5番目に多い。

3 吹田市福祉巡回バスを利用しなかった方の外出実態

〔図 20〕(60歳以上)福祉巡回バスを利用しなかった理由（複数回答）



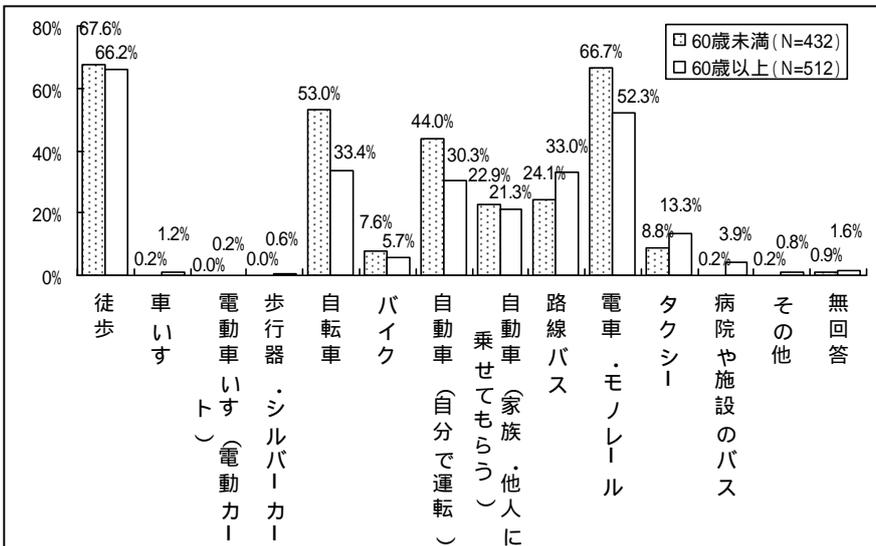
福祉巡回バスを利用しなかった理由は「特に必要がなかったから」

「家の近くから乗ることができなかったから」という方も

60歳以上で福祉巡回バスに乗ったことがない方の理由をみると、「特に必要がなかったから」が最も多く、49.8%である。

また、「家の近くから乗ることができなかったから」は14.8%である。

〔図 21〕(福祉巡回バスを利用しなかった方)現在、外出する手段（複数回答）



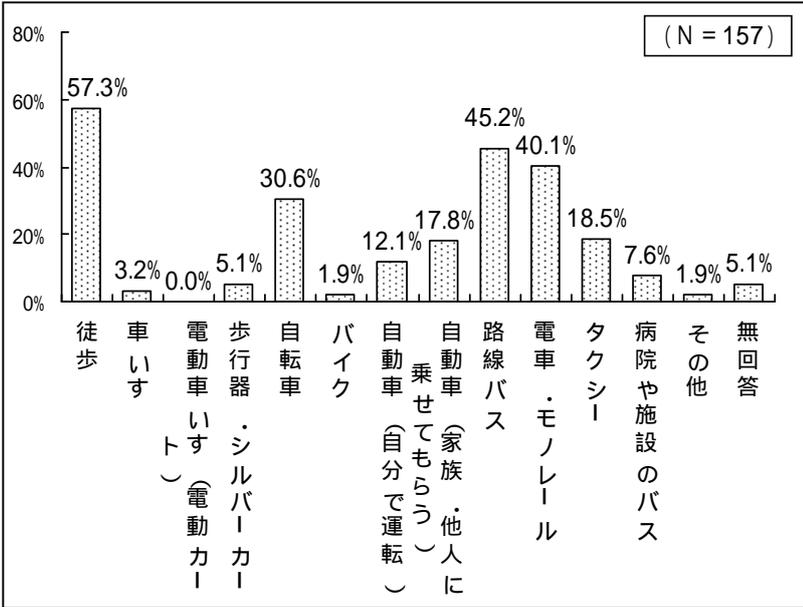
福祉巡回バスを利用しなかった方の外出する手段は、「徒歩」、「電車・モノレール」、「自転車」

60歳以上で福祉巡回バスに乗ったことがない方の外出する手段は、「徒歩」(66.2%)、「電車・モノレール」(52.3%)、「自転車」(33.4%)の順に多い。

60歳以上の方は、「路線バス」(33.0%)、「タクシー」(13.3%)の利用の割合が、60歳未満の方と比べて高い。

4 吹田市福祉巡回バスを利用していた方の現在の外出実態

〔図 22〕(福祉巡回バスを利用した方) 現在、外出する手段 (複数回答)



〔表 4〕福祉巡回バスを利用していた方が、現在、外出する手段

割合の高い上位5位の項目

ほぼ毎日、定期的に利用していた	
電車・モノレール	80.0%
徒歩	60.0%
歩行器・シルバーカー	20.0%
自転車	
路線バス	
病院や施設のバス	

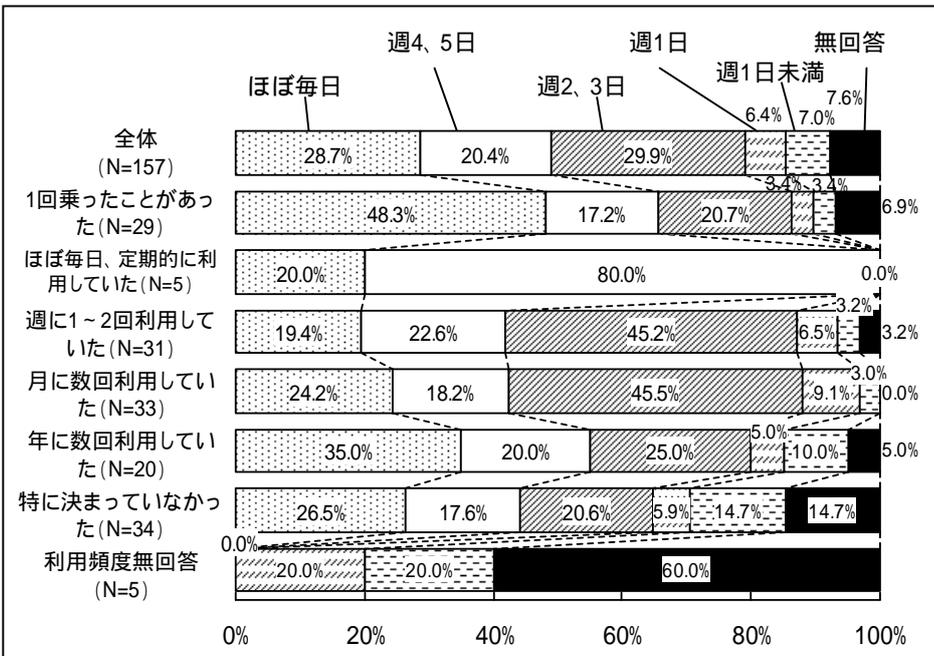
週に1~2回利用していた	
徒歩	51.6%
路線バス	
電車・モノレール	32.3%
自転車	16.1%
自動車 (家族・他人に乘せてもらう)	

月に数回利用していた	
徒歩	66.7%
路線バス	
電車・モノレール	42.4%
自転車	30.3%
タクシー	

福祉巡回バスを利用していた方の現在の外出する手段は、「徒歩」、「路線バス」、「電車・モノレール」

福祉巡回バスの利用頻度別に現在の外出手段をみると、「ほぼ毎日、定期的に利用していた」方は「電車・モノレール」が最も多く、80.0%である。「週に1~2回利用していた」方(51.6%)及び「月に数回利用していた」方(66.7%)はいずれも「徒歩」と「路線バス」が最も多い。

〔図 23〕福祉巡回バスの利用頻度別 現在の外出の頻度

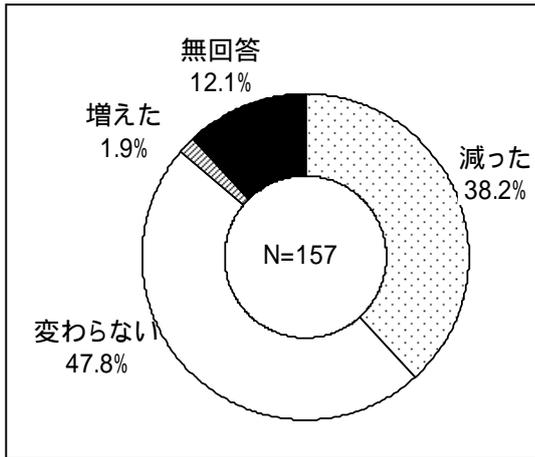


85.4%が現在、週1日以上外出している

現在の外出の頻度は、「週2、3日」が最も多く、29.9%、次いで「ほぼ毎日」が28.7%である。

「ほぼ毎日」(28.7%)、「週4、5日」(20.4%)、「週2、3日」(29.9%)、「週1日」(6.4%)を合わせると、85.4%の方が、現在、週1日以上外出している。

〔図 24〕 外出頻度の増減



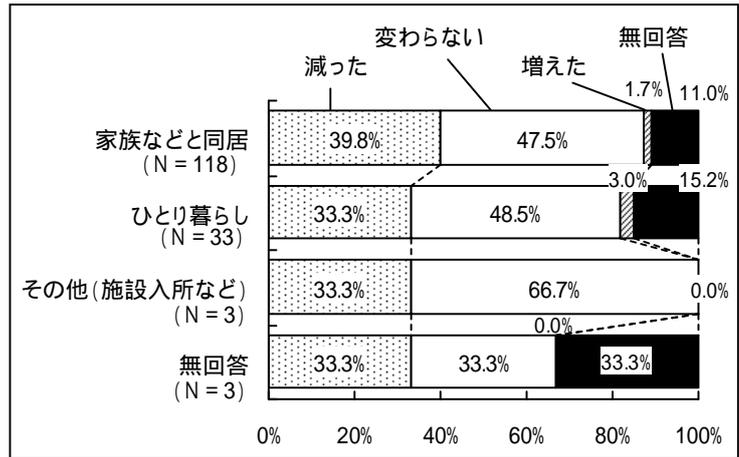
外出の頻度が変わらない方が最も多い

福祉巡回バスを利用していた方の現在の外出頻度の増減をみると、「変わらない」が最も多く 47.8%、次いで「減った」が 38.2% である。

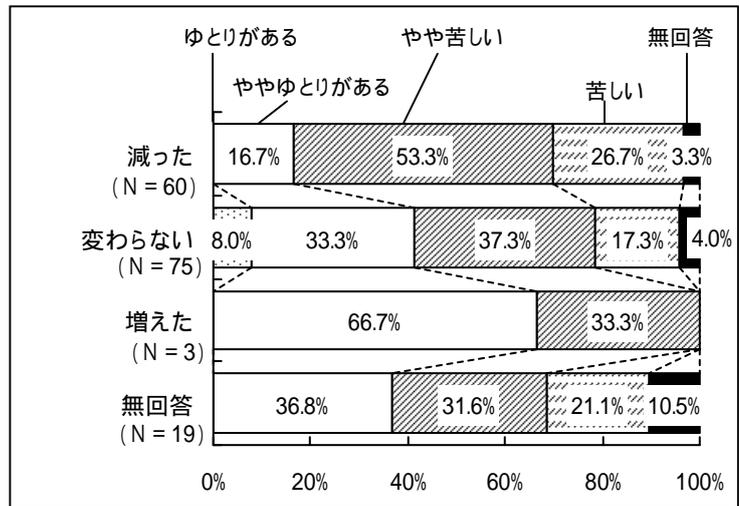
家族構成別では、「減った」割合が最も高いのは、「家族など同居」の方で 39.8% である。

外出頻度の増減別の暮らし向きは、外出頻度が「減った」、「変わらない」と回答した方で、「やや苦しい」割合が最も高い。

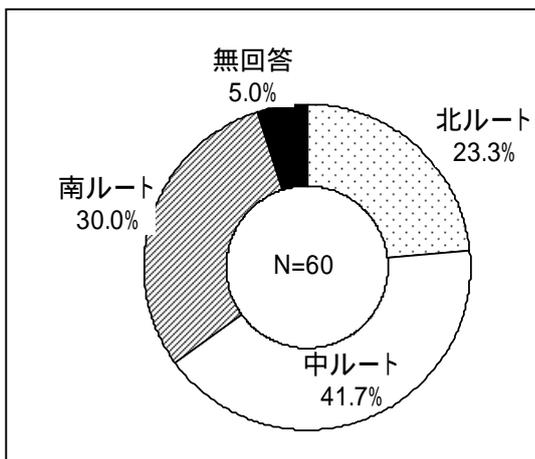
〔図 25〕 家族構成別 外出頻度の増減



〔図 26〕 外出頻度の増減別 暮らし向き



〔図 27〕 外出の頻度が減った方が利用していたルート



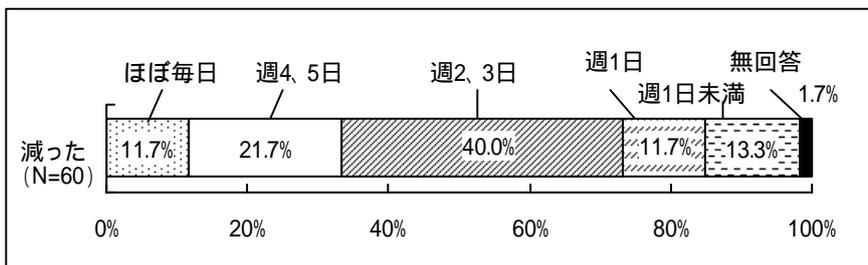
外出の頻度が減った方が利用していたルートは「中ルート」が最も多い

外出の頻度が減った方の 85.1% が、現在も週 1 日以上外出している

福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出の頻度が減った方が利用していたルートは、「中ルート」が最も多く、41.7% である。次いで、「南ルート」が 30.0%、「北ルート」が 23.3% である。

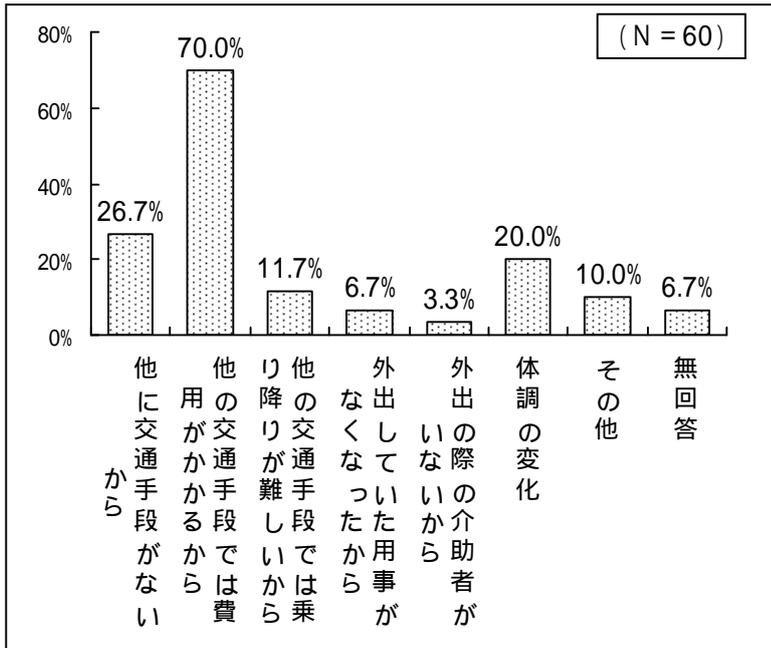
現在の外出の頻度は、「週 2、3 日」が最も多く、40.0%、次いで「週 4、5 日」が 21.7% である。

〔図 28〕 (外出の頻度が減った方) 現在、外出する頻度



「ほぼ毎日」(11.7%)、「週 4、5 日」(21.7%)、「週 2、3 日」(40.0%)、「週 1 日」(11.7%) を合わせると、85.1% の方が、現在、週 1 日以上外出している。

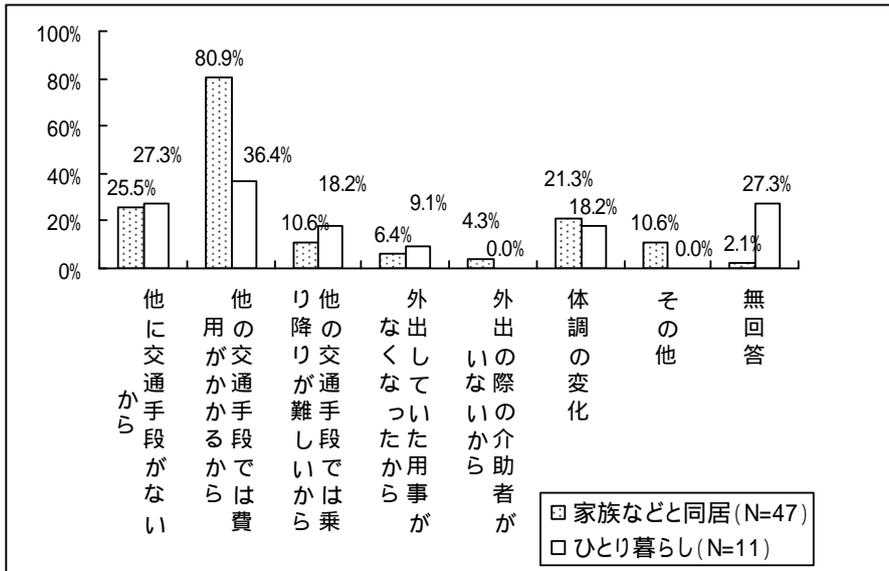
〔図 29〕 外出の頻度が減った理由（複数回答）



外出の頻度が減った理由は、「他の交通手段では費用がかかるから」

福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出の頻度が減った方の理由をみると、「他の交通手段では費用がかかるから」が最も多く 70.0%である。次いで、「他に交通手段がないから」が 26.7%、「体調の変化」が 20.0%である。

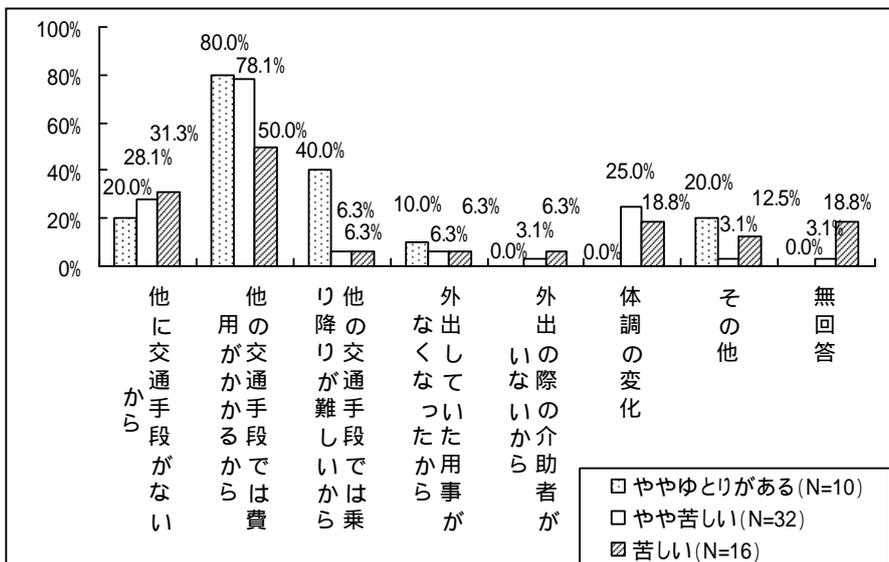
〔図 30〕 家族構成別 外出の頻度が減った理由（複数回答）



家族構成別 外出が減った理由

外出の頻度が減った理由を家族構成別でみると、「他の交通手段では費用がかかるから」を選択したのは、「家族など同居」の方では 80.9%、「ひとり暮らし」の方では 36.4%と、44.5 ポイントの開きがある。

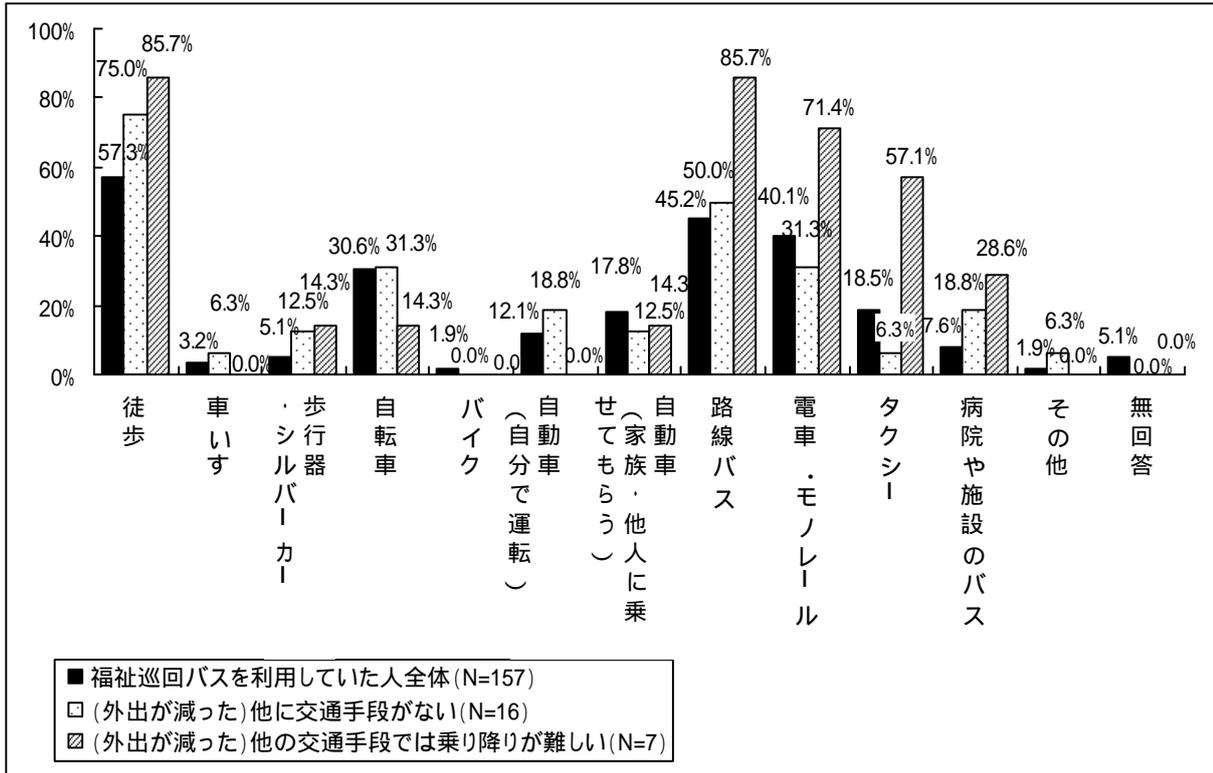
〔図 31〕 暮らし向き別 外出の頻度が減った理由（複数回答）



暮らし向き別外出が減った理由

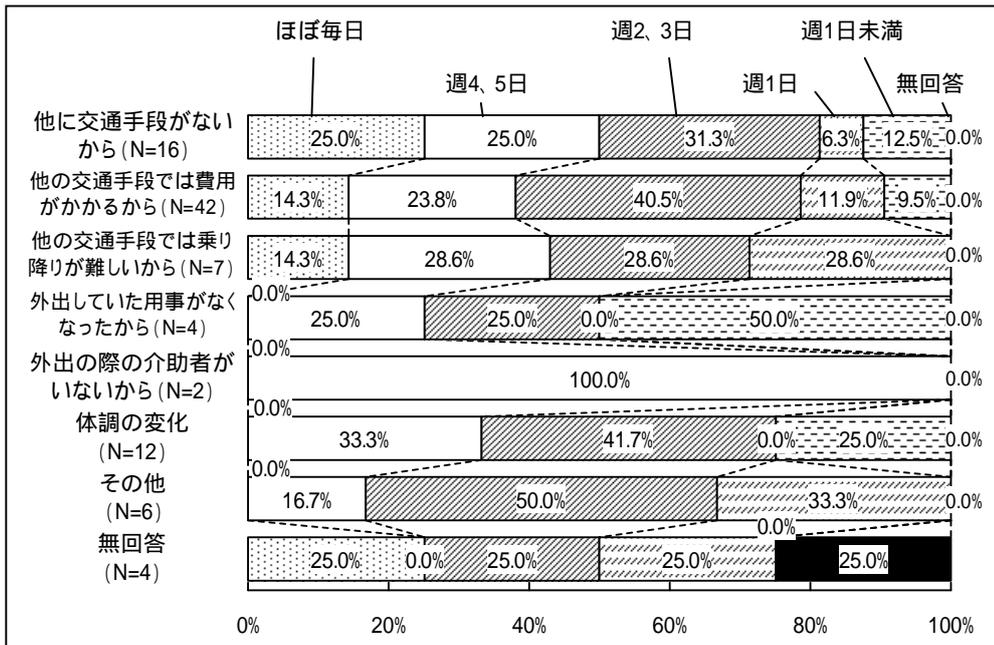
外出の頻度が減った理由を暮らし向き別でみると、「他の交通手段では費用がかかるから」を選択した割合が最も高いのは、「ややゆとりがある」方で 80.0%、次いで、「やや苦しい」方が 78.1%、「苦しい」方が 50.0%である。

〔図 32〕 外出が減った方（他に交通手段がない方、他の交通手段では乗り降りが難しい方）
福祉巡回バスを利用していた方全体との、現在、外出する手段の比較（複数回答）



「他に交通手段がない」、「他の交通手段では乗り降りが難しい」方は「徒歩」、「路線バス」で外出福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出の頻度が減った理由として「他に交通手段がないから」、「他の交通手段では乗り降りが難しいから」を選択した方の現在の外出手段をみると、「路線バス」を選択した割合が、福祉巡回バスを利用していた方全体の 45.2% に比べて、いずれも高い割合となっている。「他の交通手段では乗り降りが難しいから」を選択した方は、85.7% が、現在の外出する手段で「路線バス」を選択している。

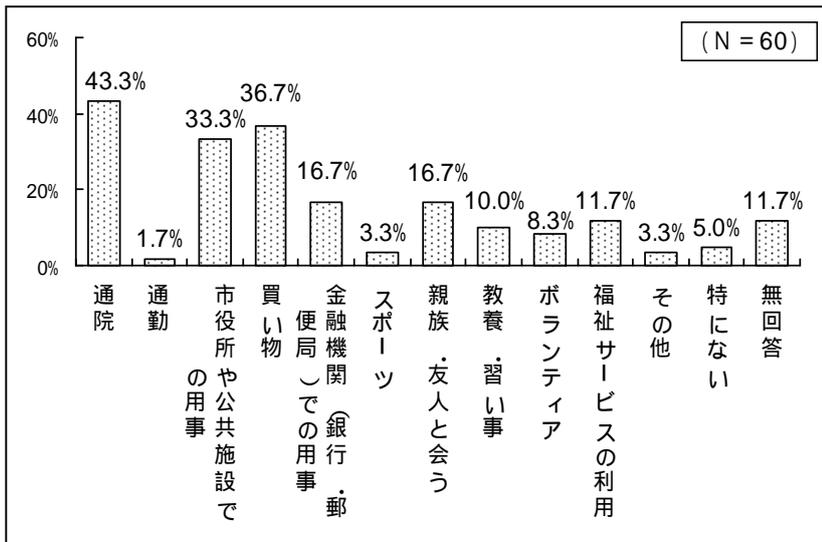
〔図 33〕 外出が減った理由別 現在、外出する頻度



外出が少ないのは「外出していた用事がなくなった」方と「体調の変化」があった方

外出の頻度が減った方のうち、週 1 日以上外出している方の割合が最も低いのは、「外出していた用事がなくなった」方で 50.0%、次いで、「体調の変化」があった方で 75.0% である。

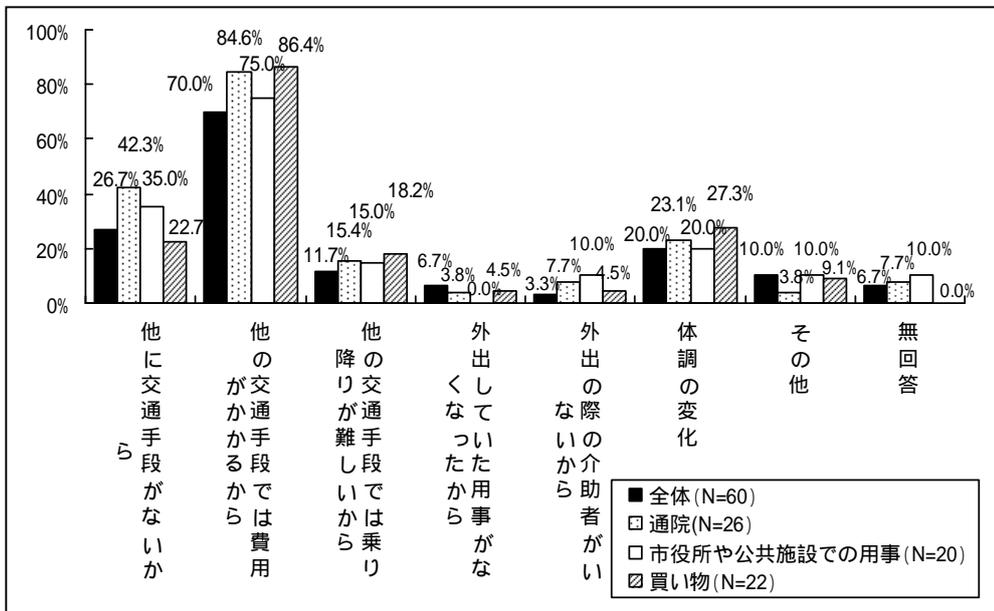
〔図 34〕 外出の頻度が減り、できなくなったこと（複数回答）



外出の頻度が減り、できなくなったことは「通院」、「買い物」、「市役所や公共施設での用事」

福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出の頻度が減り、できなくなったことは、「通院」が最も多く、43.3%である。次いで、「買い物」が36.7%、「市役所や公共施設での用事」が33.3%である。

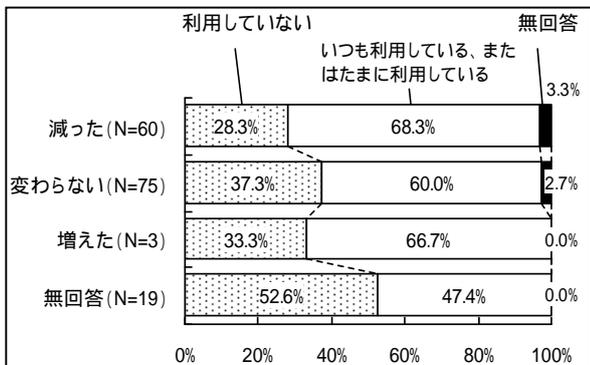
〔図 35〕 (通院、市役所や公共施設での用事、買い物ができなくなった方) 外出が減った理由（複数回答）



できなくなったこと別 外出が減った理由

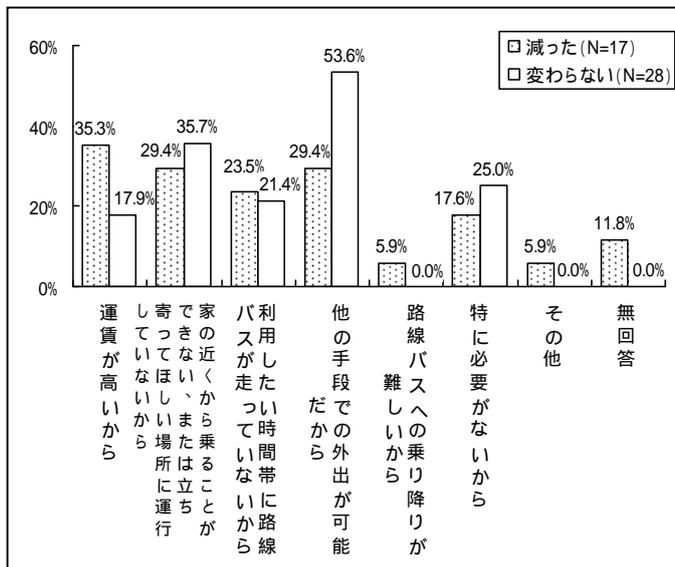
「通院」ができなくなった方の84.6%、「市役所や公共施設での用事」ができなくなった方の75.0%、「買い物」ができなくなった方の86.4%が、「他の交通手段では費用がかかるから」外出頻度が減ったと回答している。

〔図 36〕 外出頻度の増減別 路線バスの利用の有無



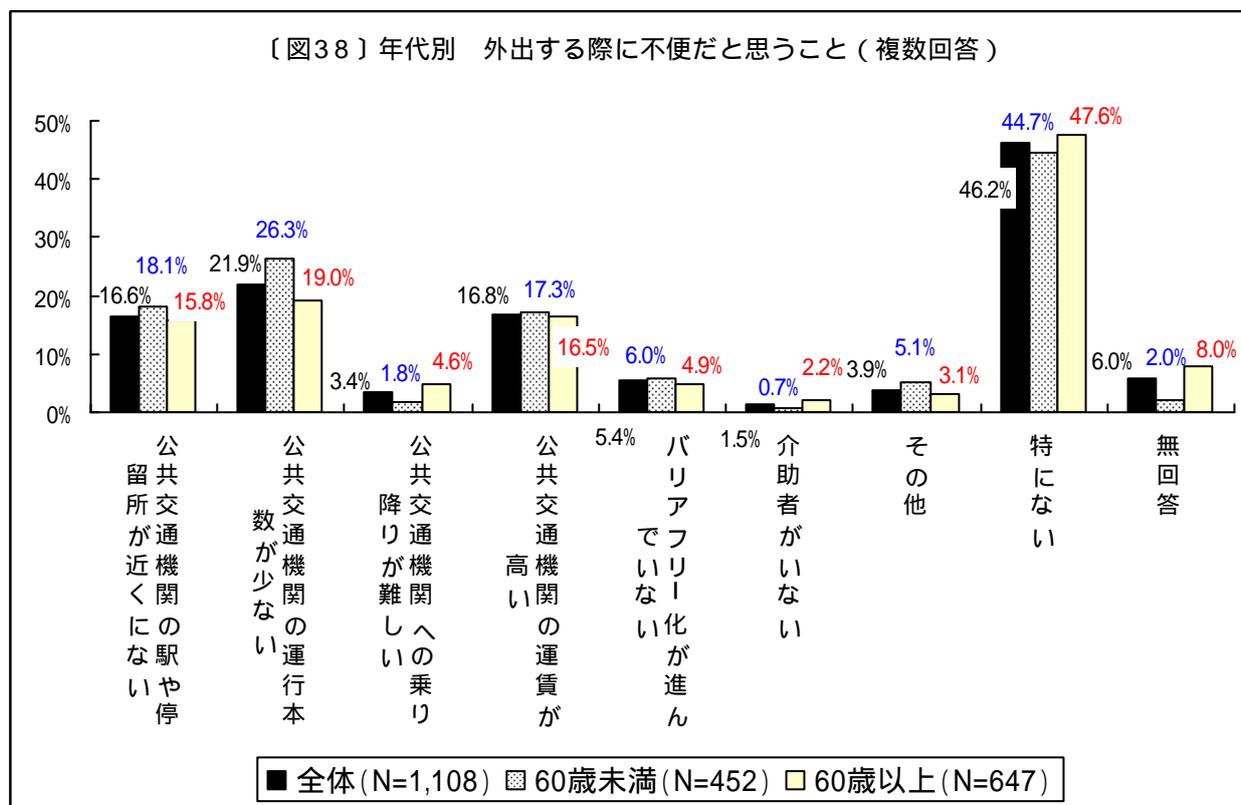
路線バスの利用 福祉巡回バスを利用していたときに比べて外出頻度が「減った」方の28.3%が路線バスを利用しておらず、そのうち29.4%が、利用しない理由を「他の手段での外出が可能だから」と回答している。

〔図 37〕 (外出が減った方、変わらない方) 路線バスを利用しない理由（複数回答）



5 「今後必要だと思う外出支援」についての意見

まず、「外出する際に不便だと思うこと」について、年代別の結果は以下のとおりである。



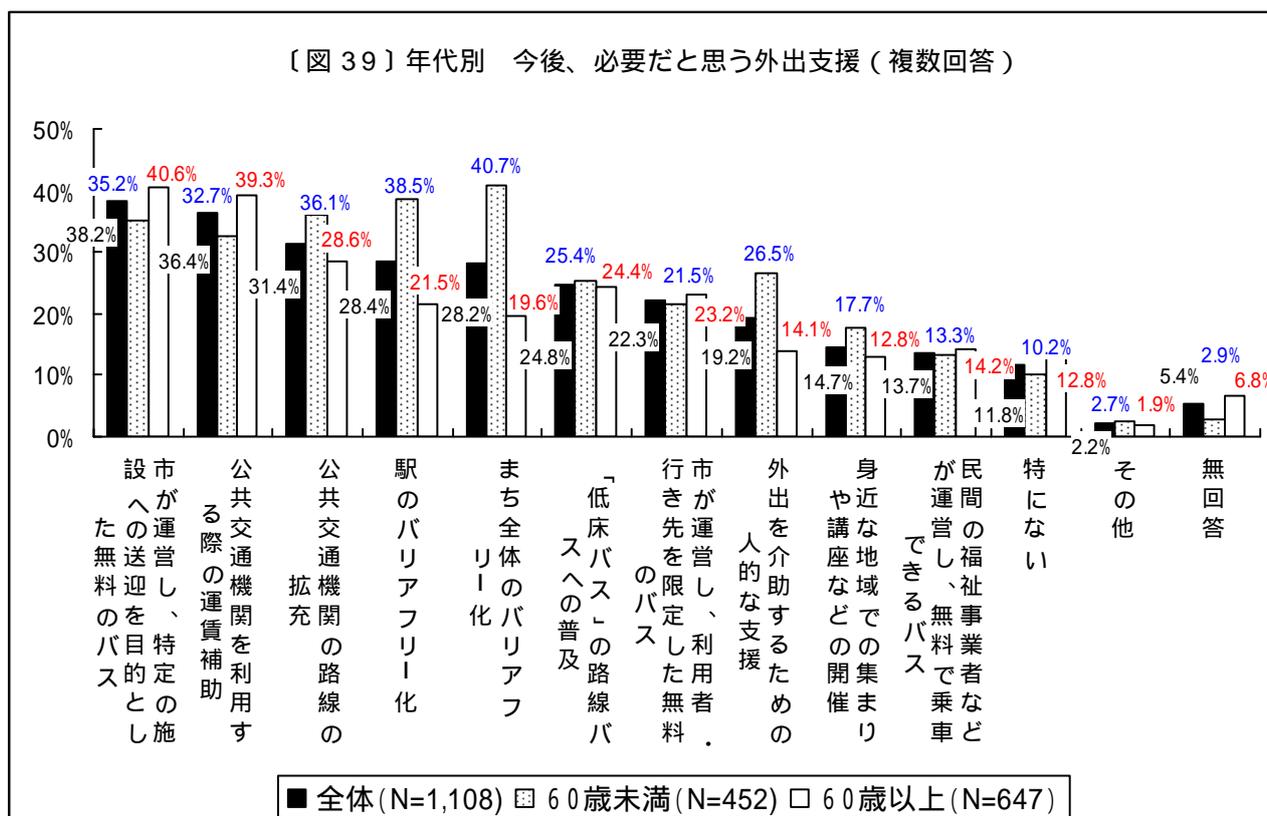
	全体
1位	特にない (46.2%)
2位	公共交通機関の運行本数が少ない (21.9%)
3位	公共交通機関の運賃が高い (16.8%)
4位	公共交通機関の駅や停留所が近くにない (16.6%)
5位	バリアフリー化が進んでいない (5.4%)

	60歳未満	60歳以上
1位	特にない (44.7%)	特にない (47.6%)
2位	公共交通機関の運行本数が少ない (26.3%)	公共交通機関の運行本数が少ない (19.0%)
3位	公共交通機関の駅や停留所が近くにない (18.1%)	公共交通機関の運賃が高い (16.5%)
4位	公共交通機関の運賃が高い (17.3%)	公共交通機関の駅や停留所が近くにない (15.8%)
5位	バリアフリー化が進んでいない (6.0%)	バリアフリー化が進んでいない (4.9%)

外出する際に不便だと思うことは、全体では「特にない」が最も多く46.2%（1位）である。不便だと思っていることでは、「公共交通機関の運行本数が少ない」が21.9%（2位）、「公共交通機関の運賃が高い」が16.8%（3位）、0.2ポイント差で「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が16.6%（4位）である。

年代別に順位に違いが出るのは、「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が、60歳未満では3位で18.1%、60歳以上は4位で15.8%である。また、「公共交通機関の運賃が高い」が、60歳未満では4位で17.3%、60歳以上は3位で16.5%である。

また、「今後、必要だと思う外出支援」についての年代別の結果は以下のとおりである。なお、選択肢は、全体で回答者の割合が高い順に並び替えてある。

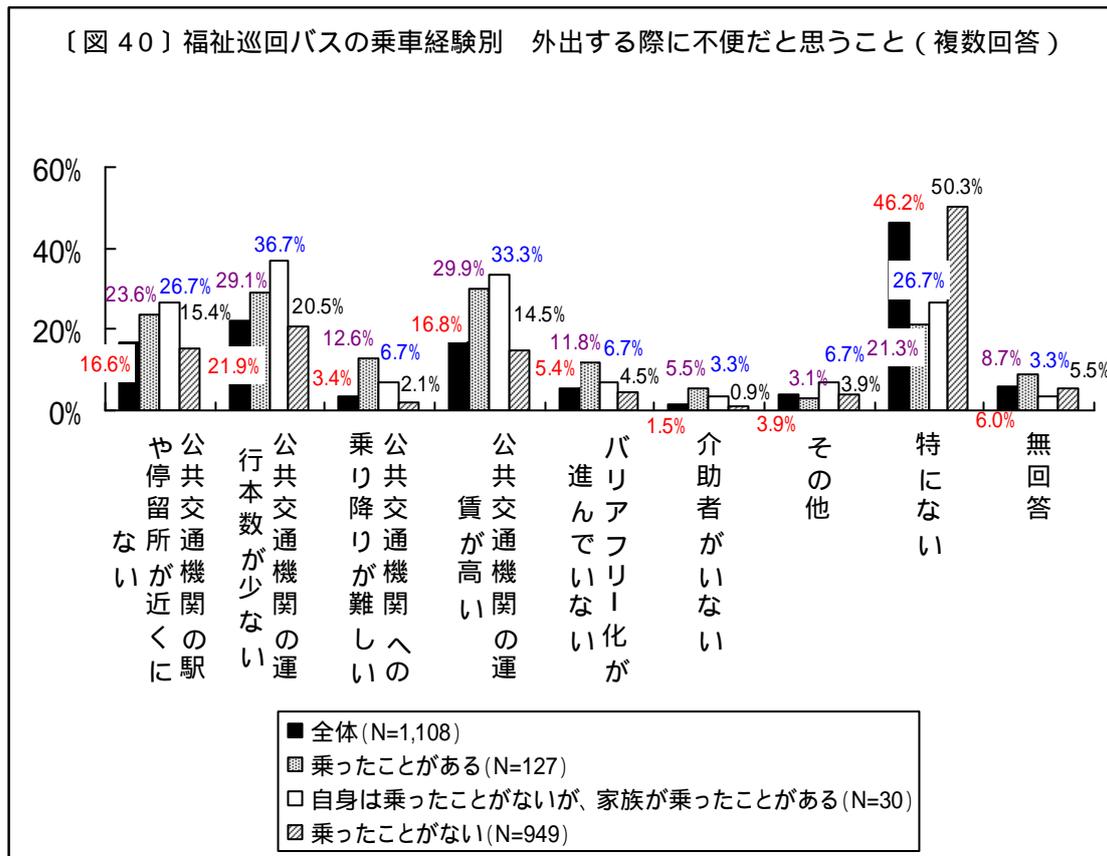


	60歳未満	60歳以上
1位	まち全体のバリアフリー化（40.7%）	市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス（40.6%）
2位	駅のバリアフリー化（38.5%）	公共交通機関を利用する際の運賃補助（39.3%）
3位	公共交通機関の路線の拡充（36.1%）	公共交通機関の路線の拡充（28.6%）
4位	市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス（35.2%）	「低床バス」の路線バスへの普及（24.4%）
5位	公共交通機関を利用する際の運賃補助（32.7%）	市が運営し、利用者・行き先を限定した無料のバス（23.2%）

全体では、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が最も多く、38.2%（1位）である。次いで、「公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助」が36.4%（2位）、「公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充」が31.4%（3位）である。

60歳未満では、「まち全体のバリアフリー化」が40.7%（1位）で最も多く、次いで「駅のバリアフリー化」が38.5%（2位）、「公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充」が36.1%（3位）である。60歳以上では、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が最も多く、40.6%（1位）である。次いで、「公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助」が39.3%（2位）、「公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充」が28.6%（3位）であり、全体と同じ順位である。

次に、「外出する際に不便だと思うこと」について、福祉巡回バスの乗車経験別の結果は以下のとおりである。

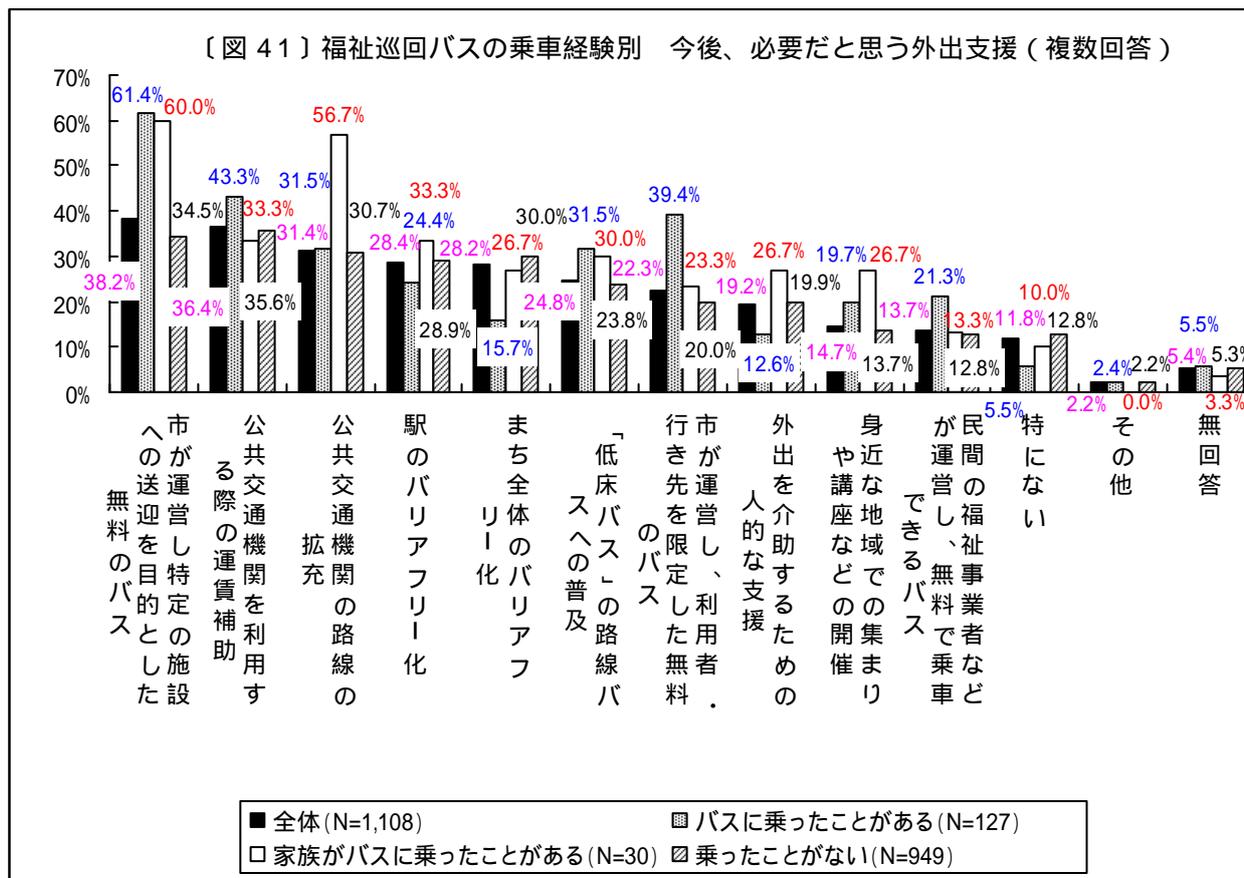


	福祉巡回バスに乗ったことがある方	福祉巡回バスに乗ったことがない方
1位	公共交通機関の運賃が高い (29.9%)	特にない (50.3%)
2位	公共交通機関の運行本数が少ない (29.1%)	公共交通機関の運行本数が少ない (20.5%)
3位	公共交通機関の駅や停留所が近くにない (23.6%)	公共交通機関の駅や停留所が近くにない (15.4%)
4位	特にない (21.3%)	公共交通機関の運賃が高い (14.5%)
5位	公共交通機関への乗り降りが難しい (12.6%)	バリアフリー化が進んでいない (4.5%)

外出する際に不便だと思うことについて、福祉巡回バスに乗ったことがある方では、「特にない」は21.3%（4位）で、最も多かったのは「公共交通機関の運賃が高い」で29.9%（1位）、0.8ポイント差で「公共交通機関の運行本数が少ない」が29.1%（2位）、次いで「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が23.6%（3位）である。

福祉巡回バスに乗ったことがない方は、「特にない」が最も多く、50.3%（1位）である。不便だと思っていることでは、「公共交通機関の運行本数が少ない」が20.5%（2位）、「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が15.4%（3位）、0.9ポイント差で、「公共交通機関の運賃が高い」が14.5%（4位）である。

「今後、必要だと思う外出支援」についての福祉巡回バスの乗車経験別の結果は以下のとおりである。
 なお、選択肢は、全体で回答者の割合が高い順に並び替えてある。



	福祉巡回バスに乗ったことがある方	福祉巡回バスに乗ったことがない方
1位	市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス（61.4%）	公共交通機関を利用する際の運賃補助（35.6%）
2位	公共交通機関を利用する際の運賃補助（43.3%）	市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス（34.5%）
3位	市が運営し、利用者・行き先を限定した無料のバス（39.4%）	公共交通機関の路線の拡充（30.7%）
4位	公共交通機関の路線の拡充（31.5%） 「低床バス」の路線バスへの普及（31.5%）	まち全体のバリアフリー化（30.0%）
5位	-	駅のバリアフリー化（28.9%）

福祉巡回バスに乗ったことがある方では、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が最も多く、61.4%（1位）である。次いで、「公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助」が43.3%（2位）、「市が運営し、利用者・行き先を限定した無料のバス」が39.4%（3位）である。

福祉巡回バスに乗ったことがない方では、「公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助」が最も多く35.6%（1位）、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が34.5%、「公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充」が30.7%（3位）である。

(1) 市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス

「今後、必要だと思ふ外出支援」として、全体では38.2%（1位）、60歳未満では35.2%（4位）とやや下がるが、60歳以上では40.6%（1位）である。

福祉巡回バスに乗ったことがある方の61.4%が選択していたことから、福祉巡回バスに乗って行っていた公共施設を見ると、市民病院（46.5%）、市役所（出張所）（33.8%）、総合福祉会館（15.9%）となっている。

〔表5〕今後、必要だと思ふ外出支援
（福祉巡回バスに乗ったことがある方）
割合が高い上位5位の項目（再掲）

市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス	61.4%
公共交通機関を利用する際の運賃補助	43.3%
市が運営し、利用者・行き先を限定した無料のバス	39.4%
公共交通機関の路線の拡充	31.5%
乗り口が低い「低床バス」の路線バスへの普及	31.5%

〔表6〕福祉巡回バスで利用した施設
割合が高い上位5位の項目

市民病院	46.5%
市役所（出張所）	33.8%
最寄の駅	19.1%
総合福祉会館	15.9%
公民館・市民ホール	12.7%

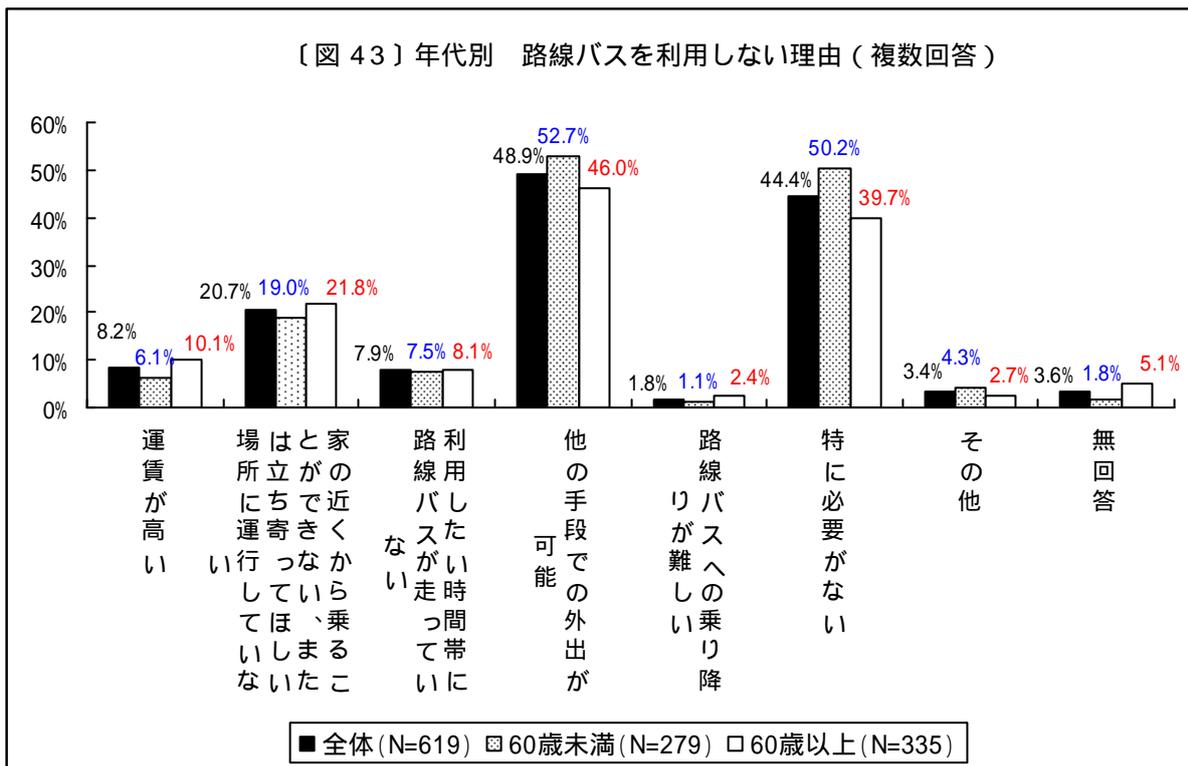
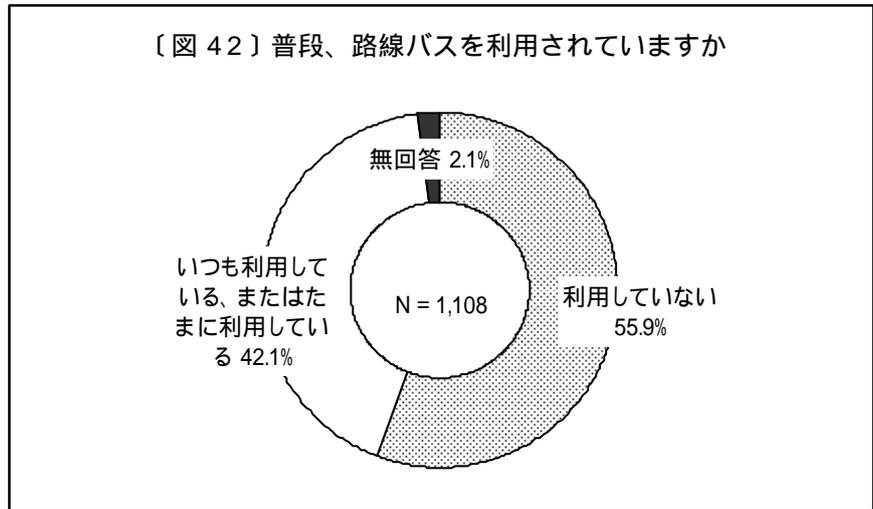
なお、「市が運営し、利用者・行き先を限定して、無料で乗車できるバス」は、福祉巡回バスに乗ったことがある方では39.4%（3位）であったが、全体では22.3%（7位）、60歳以上でも23.2%（5位）と低かったことから、福祉巡回バスのように時間をかけて市内をまわるバスより、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設へ無料で運行するバスが求められていると分かる。

(2) 公共交通機関（路線バス・電車・タクシーなど）を利用する際の運賃補助

「今後、必要だと思ふ外出支援」として、全体では 36.4%（2 位）、60 歳未満では 32.7%（5 位）、60 歳以上では 39.3%（2 位）である。

一方、路線バスの利用実態は、「利用していない」が 55.9%で、利用している方を上回っている。

また、路線バスを利用していない理由は、「運賃が高いから」は全体で 8.2%（4 位）、60 歳未満で 6.1%（5 位）、60 歳以上で 10.1%（4 位）である。



以上から、

路線バスの運賃補助を行っても、55.9%の路線バスを利用していない方には不要である。

路線バスを利用していない方にとって、運賃補助が路線バスの利用へつなげるものではない。

路線バスの運賃補助は年代を問わず必要とされているが、運賃補助を行う場合には収入や年齢によっても制限されるため、全ての人のニーズに応えることはできない。

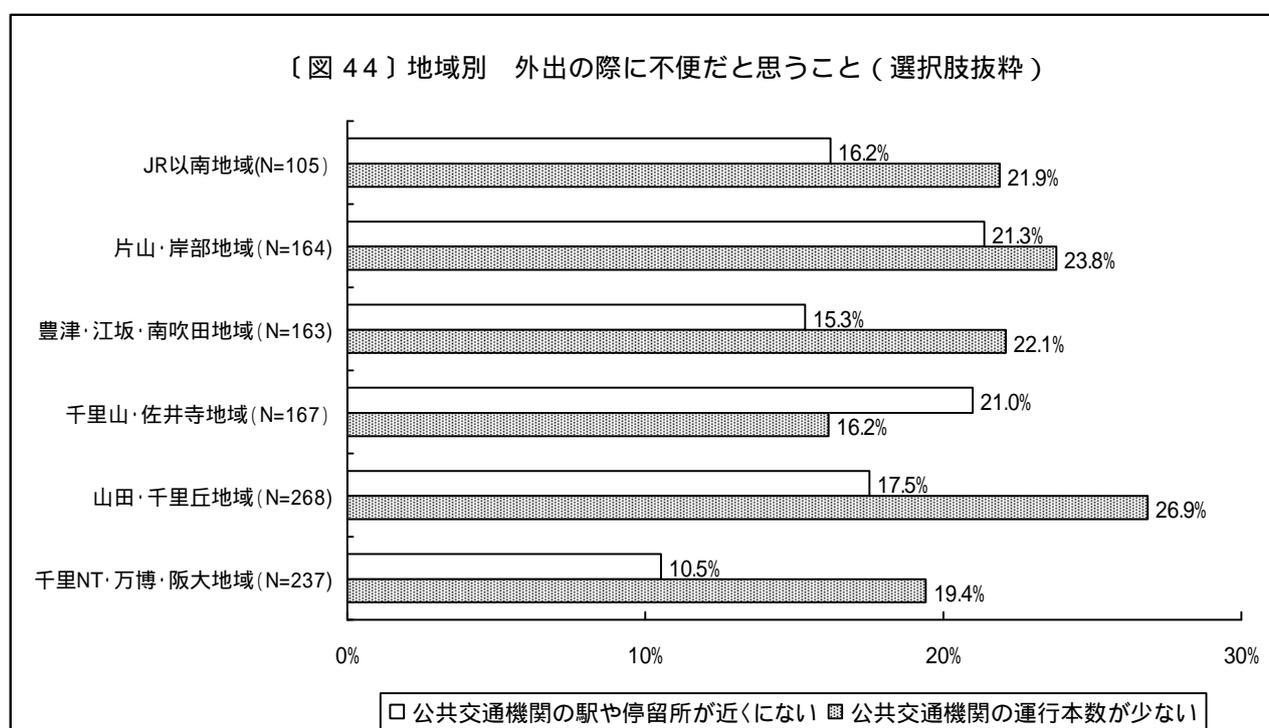
と考えられる。

(3) 公共交通機関（路線バス・電車など）の路線の拡充

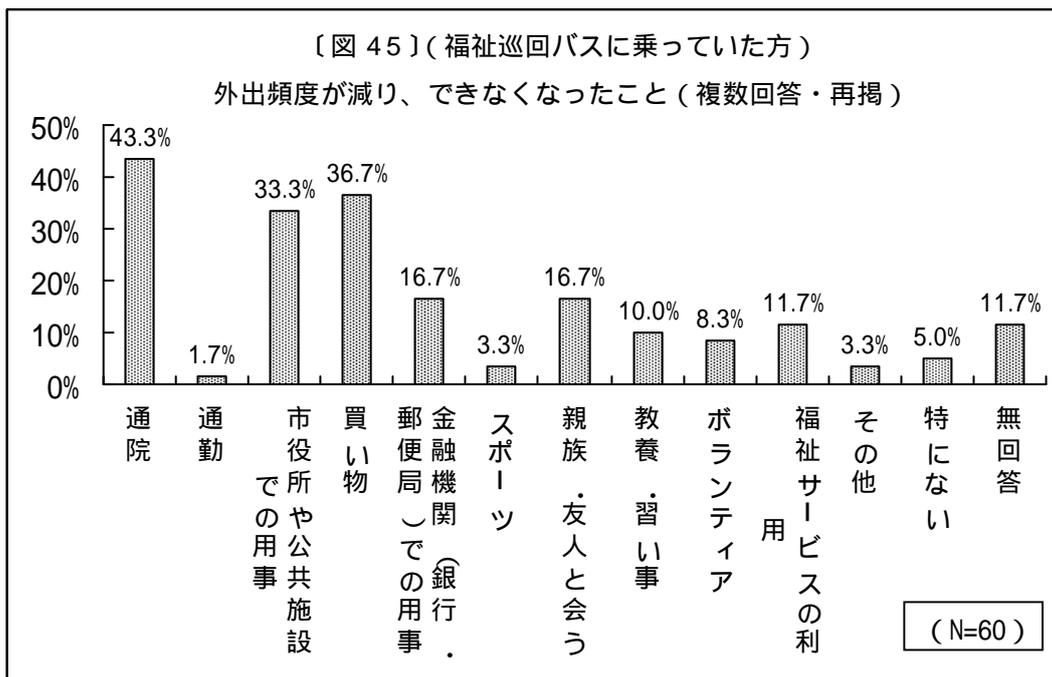
「今後、必要だと思う外出支援」として、全体では31.4%（3位）60歳未満では36.1%（3位）で、60歳以上では28.6%（3位）である。

また、「外出の際に不便だと思うこと」では、いずれの年代も「特にない」が最も多かったが、「公共交通機関の運行本数が少ない」が全体で21.9%（2位）60歳未満で26.3%（2位）60歳以上で19.0%（2位）また、「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が全体で16.6%（4位）60歳未満で18.1%（3位）60歳以上で15.8%（4位）と、どの年代でも高くなっている。

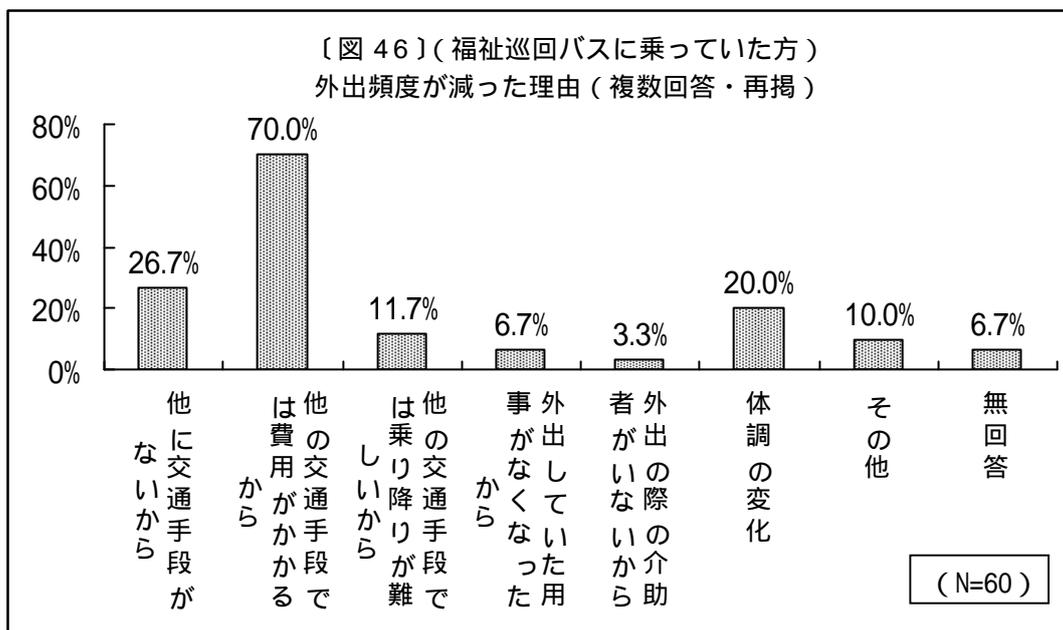
地域別では、「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」は片山・岸部地域（21.3%）千里山・佐井寺地域（21.0%）で高く、「公共交通機関の運行本数が少ない」は特に山田・千里丘地域（26.9%）で高い。



また、福祉巡回バスに乗っていた方が、外出の頻度が減りできなくなったこととして、「通院」が 43.3%（1位）となっている。



外出の頻度が減った理由として、「他に交通手段がないから」が 26.7%（2位）であることから、通院が可能な路線バスのルート拡充が求められている。

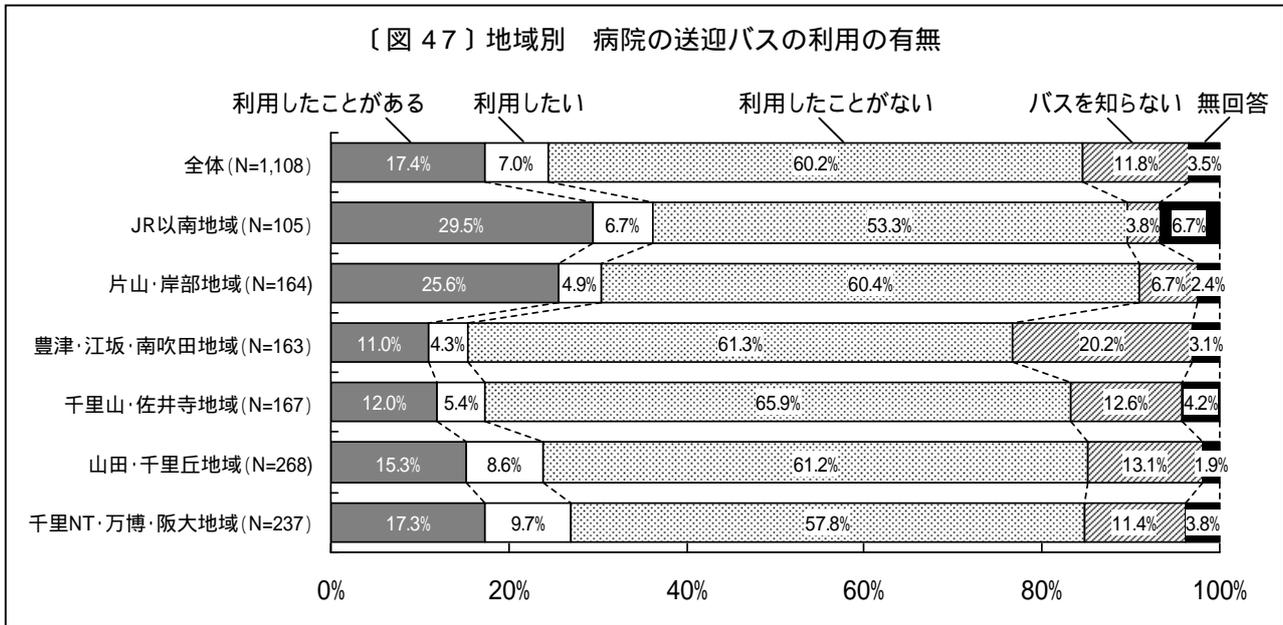


その他、「吹田市の公共交通や外出支援について(自由記述)」において、「時刻表を見やすくしてほしい」、「路線図が分かりにくい」、「路線図を配布してほしい」などの意見もあった。

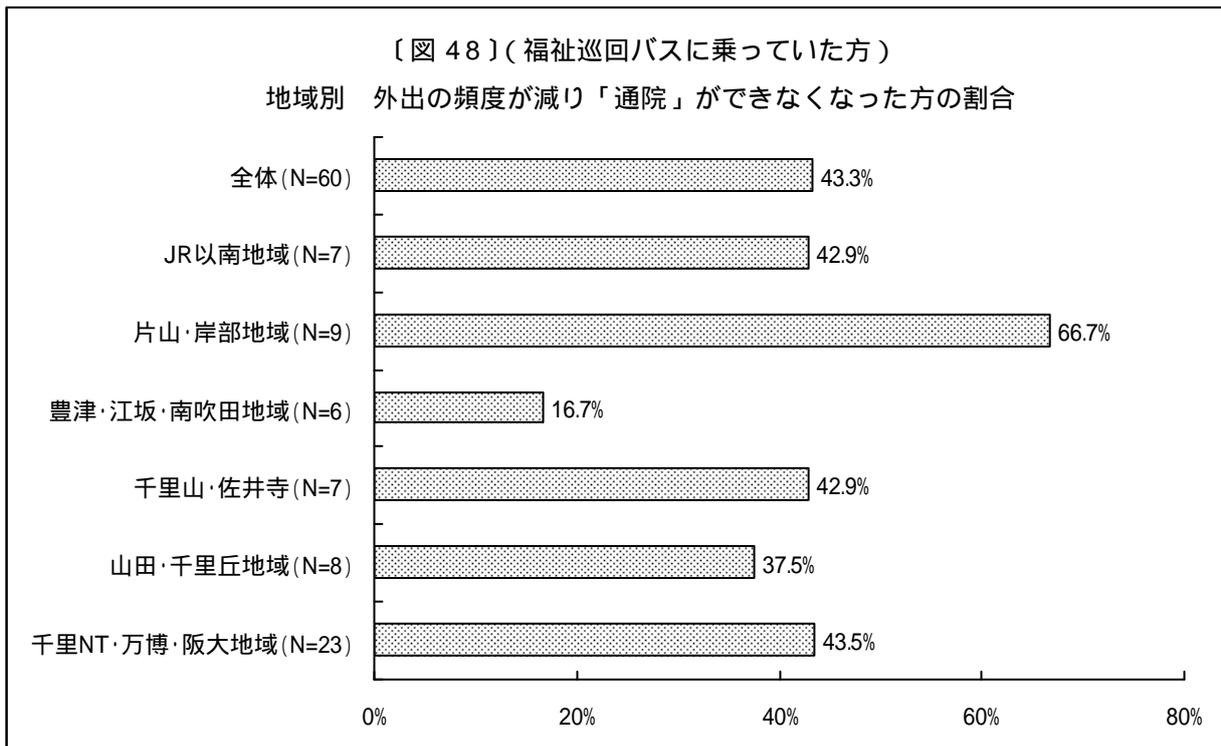
以上から、「公共交通機関(路線バス・電車など)の路線の拡充」としては、具体的に、

路線バスのルート拡充、運行本数の増便、路線バスを利用しやすいようにするための支援の3点が求められている。

なお、市内の病院の中には、送迎バスを運行しているところがあるが、「利用したことがある」は全体で17.4%、地域別ではJR以南地域(29.5%)、片山・岸部地域(25.6%)が多かった。「利用したことがない」は全体で60.2%、地域別では千里山・佐井寺地域(65.9%)が多かった。「病院の送迎バスがあることを知らない」は全体で11.8%、地域別では豊津・江坂・南吹田地域(20.2%)が多かった。「利用したい」は全体で7.0%、地域別では千里ニュータウン・万博・阪大地域(9.7%)、山田・千里丘地域(8.6%)が多い。



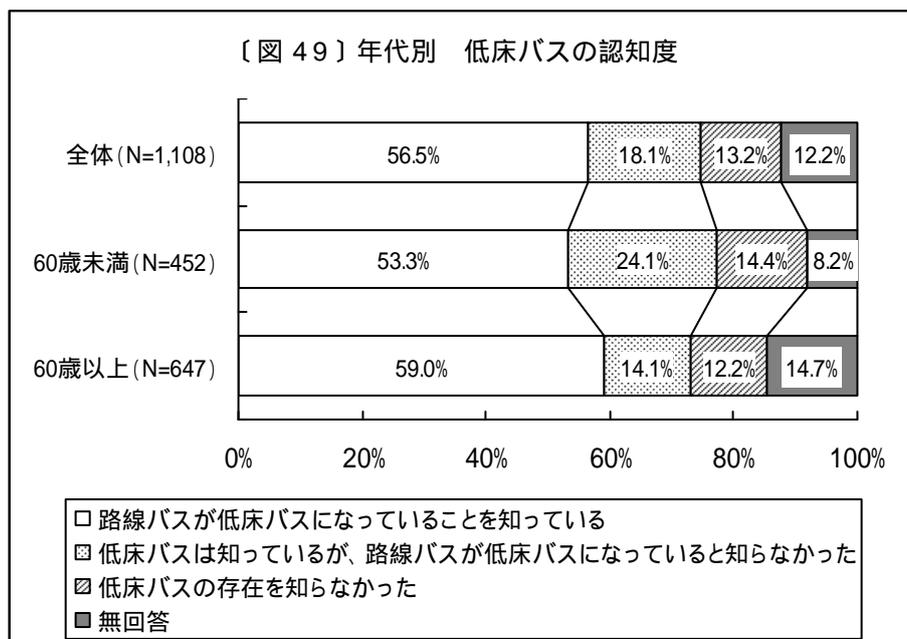
福祉巡回バスに乗っていた方で、外出の頻度が減り、できなくなったこととして「通院」とした人の地域別の割合では、片山・岸部地域(66.7%)、次いで千里ニュータウン・万博・阪大地域(43.5%)となっている。片山・岸部地域では、病院の送迎バスの利用は多いことから、送迎バスが出ていない病院へ行く手段を求めていると分かるが、それ以外の地域では、病院の送迎バスを利用することにより、通院が可能になることも考えられる。



(4) 「低床バス」の路線バスへの普及

「今後、必要だと思う外出支援」として、全体では 24.8%（6 位）、60 歳未満では 25.4%（7 位）で、60 歳以上では 24.4%（4 位）である。

既に路線バスには低床バスの導入が進められているが、「路線バスが低床バスになっていることを知っている」とした方は、全体で 56.5%、60 歳未満で 53.3%、60 歳以上で 59.0%と高い値となった。低床バスの存在を知らない方は、いずれの年代も 15%未満である。



(5) 地域別特性

JR 以南地域

路線バスについて、71.4%が利用していない。これは全地域で2番目に多い割合である。低床バスの認知度も低く、「知らない」とした人は20.0%である。一方、病院の送迎バスの利用は市内で最も多く、29.5%である。「今後、必要だと思う外出支援」については、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が34.3%で最も高い。

片山・岸部地域

「外出の際に不便だと思うこと」が「特にない」との回答が42.7%で最も低く、「公共交通機関の運行本数が少ない」が23.8%、「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が21.3%で、いずれも20%を超えている。「今後、必要だと思う外出支援」については、どの選択肢も回答が多かったが、中でも「まち全体のバリアフリー化」(31.1%)、「外出を介助するためのヘルパー派遣など、人的な支援」(23.8%)、「身近な地域での集まりや講座などの開催」(20.1%)、「民間の福祉事業者などが運営し、無料で乗車できるバス」(18.3%)について、全地域で最も高い割合となっている。

豊津・江坂・南吹田地域

「外出の際に不便だと思うこと」が「特にない」との回答が51.5%と過半数を超え、他地域に比べて最も多い。路線バスについて、77.9%が利用しておらず、全地域で最も多い。その理由としては、「利用したい時間帯に路線バスが走っていないから」が15.7%で他地域に比べて多い。「今後、必要だと思う外出支援」については、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が37.4%で最も高い。

千里山・佐井寺地域

「外出の際に不便だと思うこと」は、「特にない」に次いで、他の地域では「公共交通機関に運行本数が少ない」が最も多かったが、千里山・佐井寺地域は「公共交通機関の駅や停留所が近くにない」が最も多い。路線バスを利用していない人も59.3%で、その理由は「家の近くから乗ることができない、又は立ち寄ってほしい場所に運行していないから」が43.4%で他地域に比べて多い。「今後、必要だと思う外出支援」については、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」が39.5%で最も高い。

山田・千里丘地域

路線バスの利用について、47.4%が利用しており、全地域で2番目に多い。「外出の際に不便だと思うこと」は、「特にない」に次いで、「公共交通機関に運行本数が少ない」が最も多く、26.9%で、他の地域と比べても高い割合である。路線バスが低床バスになっていることを知っている人も多く、60.1%である。「今後、必要だと思う外出支援」についても、「公共交通機関の路線の拡充」が38.1%で最も高い割合である。

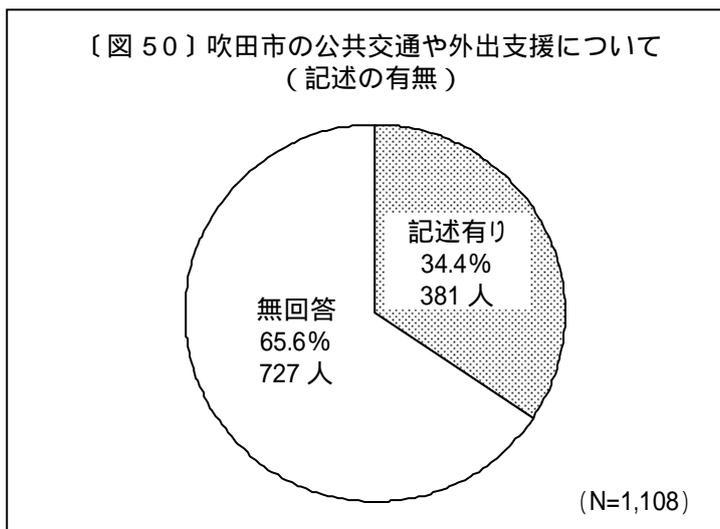
千里ニュータウン・万博・阪大地域

路線バスの利用について、他の地域は、「利用していない」の方が多かったが、60.8%と利用している人の方が多い。路線バスが低床バスになっていることを知っている人も、69.2%と市内で最も多い。路線バスを利用していない理由としては、「運賃が高いから」が14.9%で、他地域に比べて高い割合である。「今後、必要だと思う外出支援」について、「市が運営し、総合福祉会館や市民病院など、特定の施設への送迎を目的とした無料のバス」と「公共交通機関を利用する際の運賃補助」がいずれも40.9%で最も高い。

6 吹田市の公共交通や外出支援について（自由記述）

吹田市の公共交通や外出支援についての自由記述について、記述有りは 34.4%（381人）、無回答は 65.6%（727人）であった。年代別に見ると、60歳未満は記述有りのうちで 42.3%（161人）、60歳以上は 57.5%（219人）であった。また、記述有りは 60歳未満全体の 35.6%、60歳以上全体の 33.8%で、年代によって記述した人に差はあまり見られなかった。

自由記述について、分野別にまとめたものは以下のとおりである。



（1）福祉巡回バス（無料バス・市営バス含む）に関する記述：106人

		福祉巡回バス関連の記述	福祉巡回バス・無料バス・市営バスの運行反対	福祉巡回バス・無料バス・市営バスの運行賛成	福祉巡回バス関連（賛成・反対の記述なし）
合計		106人	43人	39人	24人
年齢別	60歳未満	30人	16人	7人	7人
	60歳以上	76人	27人	32人	17人
	年齢無回答	0人	0人	0人	0人
地域別	JR以南地域	10人	2人	5人	3人
	片山・岸部地域	18人	5人	9人	4人
	豊津・江坂・南吹田地域	12人	5人	3人	4人
	千里山・佐井寺地域	19人	9人	5人	5人
	山田・千里丘地域	26人	13人	6人	7人
	千里ニュータウン・万博・阪大地域	21人	9人	11人	1人
バス乗車別	バスに乗ったことがある	20人	4人	11人	5人
	家族がバスに乗ったことがある	6人	1人	3人	2人
	乗ったことがない	80人	38人	25人	17人

福祉巡回バスの運行に反対

福祉巡回バスの運行に反対（廃止に賛成）する理由としては、「市の運営するバスはコストが割高で乗る人も限られていて、税金の無駄遣いようになってしまっているのではないか。（女性、50歳代、山田・千里丘地域）」といったように、市が運営することに問題があるという意見や、「市の財政健全化の為、やむをえない事だと思います。（女性、70歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域）」といったように、財政的な理由での廃止への理解を示す意見、「無料というのはありがたいのですが、市の税金でまかなわれるものなので、利用者も少しでも負担しなければいけないと思います。（女性、60歳代、山田・千里丘地域）」といったように、無料であることを問題とする意見、また、「地域的にまったく利用できない様な無料バスや福祉バス等は不要です。（女性、70歳代、千里山・佐井寺地域）」といった、運行地域に偏りがあり、また利用できる人も限られているため、不公平であるといった意見があった。

福祉巡回バスの運行に賛成

福祉巡回バスの運行に賛成（廃止に反対）する理由としては、「福祉バスは高齢者の介助的な役割を持ち、外出に大切な交通手段だったように思います。できる事なら元通り運行を希望します。（男性、80歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域）」、「地区巡回のバスの必要性は高齢者が益々増加するので、一層高まる筈。少々採算が合わなくても、必要とする人がいる以上は継続するのが行政の姿ではないかと思う。（男性、60歳代、千里山・佐井寺地域）」といったように、高齢者や障がい者の外出支援のために必要だという意見や、「福祉巡回バス等がありがたいと思います。無料でなくとも、少しの負担で復活出来たらと思います。（女性、60歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域）」といったように、無料ではなく低料金で利用できるバスとしての復活を希望する意見があった。

（2）路線バスの拡充（バス停・時刻表への意見を含む）：72人

	60歳未満	60歳以上	合計
JR以南地域	0人	2人	2人
片山・岸部地域	8人	8人	16人
豊津・江坂・南吹田地域	4人	2人	6人
千里山・佐井寺地域	7人	5人	12人
山田・千里丘地域	13人	11人	24人
千里ニュータウン・万博・阪大地域	6人	6人	12人
合計	38人	34人	72人

増便希望

「どの系統でも1時間に3本以上として身近な利用ができる様な改善をしてもらいたい。（女性、60歳代、山田・千里丘地域）」、「通勤時間帯にバスがないので不便。（女性、30歳代、豊津・江坂・南吹田地域）」、「土、祝、日、等のバスの運行回数が少ない。（女性、70歳代、片山・岸部地域）」といったように、運行本数を増やしてほしい、最終バスの時間を遅くしてほしいなどの意見があった。

具体的に増便を希望する地域として挙げた主なものは以下のとおりである。

江坂地域のバス（JR吹田駅行きなど）

阪急、JR、地下鉄御堂筋線の各線をつなぐバス

JR岸辺駅からのバス（亥の子谷行き、桃山台行きなど）

五月が丘、亥の子谷地域からのバス（JR吹田駅行き、阪急山田駅行きなど）

吹高・吹高口行き

千里丘地域（青葉丘や新芦屋から山田、JR茨木駅、千里中央行き）

ルート拡充

ルート拡充の意見として、具体的なルートを挙げた主なものは以下のとおりである。

阪大病院に吹田/南千里から1本で行ける路線バス

JR千里丘駅からの路線バス（清水、青葉丘、新芦屋上、JR吹田駅方面行き）

阪急千里線から地下鉄線方向行きの路線バス

千里山地域の路線バス（阪急南千里駅発着、市民病院、JR方面行き）

北千里から山田行きの路線バス

阪急北千里駅、阪急山田駅から吹田市役所、JR吹田駅行きの路線バス

バス停・時刻表への意見

「時刻表とかをもっと見やすくしてもらえるとわかりやすい。バス停に雨やどりや日かげになるところがあると良い気がします。(女性、20歳代、山田・千里丘地域)」、「公共交通機関のバス路線図を作成、配布すべきだと思う。(男性、40歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域)」、「公共交通で行先別のルートが分かり易い表示と、乗降場所がハッキリしていること。(男性、60歳代、豊津・江坂・南吹田地域)」など、路線図や時刻表の改善や配布を求める意見、また、バス停の改善を求める意見があった。

(3) 運賃補助(運賃の無料化含む): 47人

	60歳未満	60歳以上	合計
JR以南地域	0人	3人	3人
片山・岸部地域	2人	5人	7人
豊津・江坂・南吹田地域	2人	4人	6人
千里山・佐井寺地域	1人	4人	5人
山田・千里丘地域	4人	5人	9人
千里ニュータウン・万博・阪大地域	3人	14人	17人
合計	12人	35人	47人

運賃補助の方法としては、「各交通機関の補助パスカード」「バス(タクシー)の補助券」「割引回数券」「公共交通機関の無料チケット」などが意見としてあった。

また、運賃補助を必要とする理由としては、「無料になり外出が増えると健康や認知症予防に良い。外食や買物する機会が増えると経済循環も良くなるのではと思う。(女性、60歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域)」、「今後家に閉じこもり防止や健康の為、多少の補助でもっと外出しやすくしてほしい!(男性、70歳代、山田・千里丘地域)」といったような意見があった。

また、バスや電車だけではなく、「タクシーに頼らなくてはいけなくなった場合、かなり経済的に負担がかかって来ると思うので、低所得者の為には運賃補助等何らかの助けは必要だと思います。(女性、60歳代、山田・千里丘地域)」といったようにタクシーへの運賃補助が必要という意見や、「吹田市と限定せず広範囲な移動が金額を気にせず動けるのが可能なようにしてほしい。(女性、60歳代、豊津・江坂・南吹田地域)」、「通院に関する運賃補助のようなものを。(女性、20歳代、山田・千里丘地域)」といったように、市外への外出の支援や、用途を限定した運賃補助を求める意見もあった。

(4) 電車・駅・駅周辺施設の充実: 35人

	60歳未満	60歳以上	合計
JR以南地域	1人	0人	1人
片山・岸部地域	4人	3人	7人
豊津・江坂・南吹田地域	4人	1人	5人
千里山・佐井寺地域	8人	1人	9人
山田・千里丘地域	5人	7人	12人
千里ニュータウン・万博・阪大地域	1人	0人	1人
合計	23人	12人	35人

電車・駅・駅周辺施設の充実への意見として、具体的な駅名を挙げた主なものは以下のとおりである。

JR 吹田駅か JR 岸辺駅に快速電車を停車させてほしい

JR 岸辺駅の整備(自転車置き場の整備、タクシー乗り場を分かりやすいように、バス停を分かりやすく、歩く距離が長い、階段が多い)

JR 千里丘駅の整備(エレベーターの設置、駅前道路の整備)

阪急南千里駅の整備(南側に改札の増設、エレベーターの設置)

阪急山田駅の大阪行き方面の乗車口(改札口)が遠い

阪急千里山駅の周辺整備

阪急千里線の各駅の充実及び周辺道路の整備

阪急吹田駅にエレベーターの設置

JR 吹田駅や阪急吹田駅の地下通路の整備

江坂駅の周辺整備(エレベーターかスロープの設置、禁煙の徹底)

その他、「阪急電車の高架化(踏切をなくす)(男性、60歳代、千里山・佐井寺地域)」や「阪急電車について、朝の7時前後に梅田行きの直通が少なくて多少不便に感じています。(男性、20歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域)」といった意見もあった。

また、「最終電車の延長をお願いします。(男性、60歳代、豊津・江坂・南吹田地域)」といったように、電車の運行時間への意見もあった。

駅のバリアフリー化を求める意見がある一方で、「JRを利用しています。体の調子が良くない時等、エレベーターを利用させてもらってありがたいです。各駅にエレベーターがあり感謝しています。(女性、60歳代、山田・千里丘地域)」、「豊津・吹田の駅を利用しますが、エレベーター、スロープがあり、助かっています。(女性、30歳代、片山・岸部地域)」といったように、バリアフリー化が進んできていることへの意見もあった。

(5) バスの運行形態への要望：29人

「料金が安い便利なバスが欲しい...(女性、50歳代、千里ニュータウン・万博・阪大地域)」、「ワンコイン(100円)で市内を循環バスが通る事を願います。(女性、70歳代、山田・千里丘地域)」といったように、低料金で乗ることができる市のバスを希望する意見があった。コミュニティバスを安価でといった意見もあった。

バスの運行形態についての意見分類

低料金のバス	14人
小型バス	5人
有料の市バス(コミュニティバス)	4人
民間連携・民間委託の市バス	4人
民間福祉事業者のバス	2人

また、「市独自で交通機関を運営するのではなく民間企業との連携を模索してほしい。(男性、50歳代、千里山・佐井寺地域)」、「巡回バスも路線バス会社に運用を委託した方がコストも低くサービスも向上する筈です。(男性、70歳代、JR以南地域)」といったように、市が民間企業に委託あるいは連携してバスを運行することを希望する意見もあった。

バスの大きさでは、「ある程度、元気な高齢者等には融通のきく小回りのきくミニバスのようなものが重宝されるでしょう。(女性、60歳代、片山・岸部地域)」といったように、道幅の狭い道路でも運行可能な小型バスで、運行回数を多くしてほしいといった意見があった。